ONKYO®

スーパーオーディオCD&
DVDオーディオ/ビデオプレーヤー

DV-SP502

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■DVDオーディオ、スーパーオーディオCDにも対応、ユニバーサル仕様のDVDプレーヤー
■DVD-R/RWをはじめとする多彩なディスクに再生対応（2波長ツインフォーカスピックアップ）
■よりなめらかな高画質再生を実現（プログレッシブスキャン回路）
■DVDビデオの信号を高分解能で処理（108MHz/12bitビデオD/Aコンバーター）
■対話形式によるスムーズな初期設定が可能（セットアップナビゲーター）
■ドルビーデジタル/DTSデコーダー搭載
■ラストメモリー機能

*

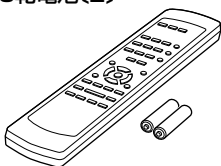
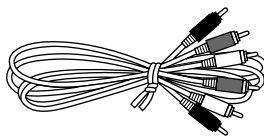
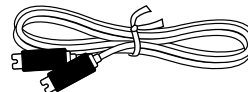
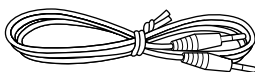
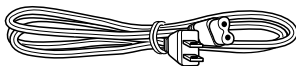
Windows Media、Windowsのロゴは、米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

** ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビーおよびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*** 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS Digital Out"は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

付属品を確認する

本機には以下の付属品が同梱されています。お確かめください。
〔 〕内の数字は数量を表わしています。

- リモコン(RC-574DV)〔1〕
- 単3乾電池〔2〕

- オーディオ・ビデオ用ピンコード(1.5m)〔1〕
  アナログ音声および映像を送るコードです。

- Sビデオコード(1.5m)〔1〕
  Sビデオ映像を送るコードです。

- RIケーブル(0.8m)〔1〕
  RI端子付きオンキヨー製品とのシステム接続をするケーブルです。
  （RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。）

- 電源コード(2.0m)〔1〕

- 取扱説明書(本書)〔1〕
- 保証書〔1〕
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内〔1〕

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

目次

はじめに

接続をする

基本の再生

こんなこともできます

いろいろな再生

設定をする

困ったときは

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について
この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
●本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
●テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
●本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔、ディスクトレイなどから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●お子様がディスクトレイに手を入れないようご注意ください。けがの原因となることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクが機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。
●レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ 点検について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

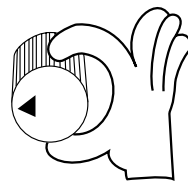
●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ディスクについての予備知識

再生できるディスクについて

- 本機はNTSC（日本のテレビ方式)に適合していますので、ディスクやパッケージに「NTSC」と表示されているディスクをご使用ください。
- ディスクレーベル面に COMPACT disc DIGITAL AUDIO マークの入ったものなどJIS規格に合致したディスクを使用してください。
- 下記のマークはディスクレーベル、パッケージ、またはジャケットに付いています。

再生できるディスクの種類とマーク	
DVDビデオ DVD VIDEO / DVD VIDEO	DVDオーディオ DVD AUDIO / DVD AUDIO
DVD-R　DVD-RW DVD R / DVD RW	SACD SUPER AUDIO CD
ビデオCD COMPACT disc DIGITAL VIDEO	CD COMPACT disc DIGITAL AUDIO
CD-R COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable / COMPACT disc Recordable	CD-RW COMPACT disc ReWritable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable

複製制限機能(コピーコントロール機能)のついた音楽CDの再生について

複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽CDの中には正式なCD規格に合致していないものがあります。それらは特殊なディスクのため、本機で再生できない場合があります。

本機で再生できないディスクの種類

- リージョンが「2」「ALL」以外のDVDビデオ
- DVD-ROM・DVD-RAM
- CD-Gなど

本機は再生専用機です。DVD-R/DVD-RW/CD-R/CD-RWに録音・録画することはできません。

音楽用CDやMP3、WMAのCD-R/CD-RWを再生するときも、必ずテレビと接続してください。
リピート再生、ランダム再生、プログラム再生など、テレビ画面に設定を表示してご使用いただく機能もあります。

DVDに表示されているマークについて

DVDのディスクレーベル、またはパッケージには以下のようなマークが表示されています。

マーク	意味
2	記録されている音声の数
2	記録されている字幕言語の数
3	記録されているアングル数
16:9 LB	記録されている映像のアスペクト比（縦横比）
2　ALL	リージョン番号（地域番号）を表わします。本機はリージョン番号「2」、または「ALL」と表示されたディスクを再生することができます。

DVDビデオによって、リージョン番号が指定されているものがあります。リージョン番号は地域を限定するもので、日本はリージョン番号「2」が指定されています。
これ以外のリージョン番号マークのついたディスクを再生しようとすると、画面に再生できない警告表示が出ます。

DVDの再生について

DVDでは、ディスク制作者の意図により、操作方法を変更したり、特定の操作を禁止しているものがあります。このためディスクによって操作方法が異なったり、特定の操作ができないことがあります。ディスクによって禁止されている操作をしたときは、画面にディスクによる禁止マークが出ます。また、プレーヤーによって禁止されている操作をしたときは、画面にプレーヤーによる禁止マークが出ます。

DVD-Rの再生について

- 本機はDVDビデオフォーマット（ビデオモード）で記録されたDVD-Rを再生することができます。
- MP3/WMA/JPEGが記録されたDVD-Rを再生することはできません。
- ファイナライズしていないDVD-Rを再生することはできません。

DVD-RWの再生について

- 本機はDVDビデオフォーマット（ビデオモード）、またはビデオレコーディングフォーマット（VRモード、CPRM対応）で記録されたDVD-RWを再生することができます。
- 本機は再生専用機です。DVD-RWディスクに録画することはできません。
- MP3/WMA/JPEGが記録されたDVD-RWを再生することはできません。
- ファイナライズしていないDVDビデオフォーマット（ビデオモード）のDVD-RWを再生することはできません。
- DVDレコーダーで編集（シーン消去など）をした箇所を再生すると、そのつなぎ目で一瞬映像が止まります。これは故障ではありません。

※DVDビデオフォーマット（ビデオモード）記録、およびDVDビデオレコーディングフォーマット（VRモード）記録についてはDVDビデオレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ビデオCDについて

本機はPBC付きビデオCD（バージョン2.0）に対応しています。（「PBC」は、Playback Controlの略です。）
ディスクによって、2種類の再生を楽しめます。

ディスクの種類	楽しみかた
PBC（ピービーシー）なしビデオCD（バージョン 1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（画像）を再生できます。
PBC（ピービーシー）付きビデオCD（バージョン 2.0）	PBC（ピービーシー）なしのビデオCDの楽しみかたに加えて、テレビ画面のあるソフトを使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（メニュー再生）。この取扱説明書で、説明されている機能が働かない場合があります。

CD-R/CD-RWの再生について

- 本機は音楽CDフォーマット、ビデオCDフォーマット、WMAやMP3の音楽データ、またはJPEGの静止画像が記録されたCD-R/CD-RWディスクを再生することができます。ただし、ディスクよっては「再生できない」、「ノイズが出る」または「音が歪む」などの現象が起きることがあります。
- 本機は再生専用機です。CD-R/CD-RWディスクに録音することはできません。
- ファイナライズしていないCD-R/CD-RWディスクを再生することはできません。

※詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

MP3の再生について

- ISO9660レベル1/レベル2のCD-ROMファイルシステム、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録したディスクを使用してください。
- MPEG1オーディオレイヤー3のサンプリング周波数32kHz、44.1kHz、または48kHzで記録されたファイルに対応しています。それ以外で記録されたファイルは**[このフォーマットは再生できません]**と表示され、再生することができません。
- 可変ビットレート(VBR: Variable Bit Rate)には対応していません(再生できる場合、表示部の時間表示が速くなったり、遅くなったりします）。
- 「.mp3」、または「.MP3」という拡張子がついたMP3ファイルのみ再生することができます。
- マルチセッション（☞59ページ）には対応していません。
- フォルダ名、トラック名のアルファベット順に、299フォルダ、648トラックまで認識・再生することができます。ただし、フォルダの構成によっては、すべてのフォルダ、トラックが認識・再生できない場合があります。
- 音質的には、記録ビットレート128kbpsを推奨します。

WMAの再生について

- WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XPまたはWindows Media® Player 9 seriesを使用してエンコードすることができます。
- ISO9660レベル1/レベル2のCD-ROMファイルシステム、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録したディスクを使用してください。
- サンプリング周波数32kHz、44.1kHz、または48kHzで記録されたファイルに対応しています。それ以外で記録されたファイルは**［このフォーマットは再生できません］**と表示され、再生することができません。
- 可変ビットレート（VBR: Variable Bit Rate）、またはロスレスエンコーディング（loss-less encoding）には対応していません。
- 「.wma」、または「.WMA」という拡張子がついたWMAファイルのみ再生することができます。
- マルチセッション（☞59ページ）には対応していません。
- フォルダ名、トラック名のアルファベット順に、299フォルダ、648トラックまで認識・再生することができます。ただし、フォルダの構成によっては、すべてのフォルダ、トラックが認識・再生できない場合があります。
- WMAファイルは、米国Microsoft Corporationの認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

ディスクについての予備知識

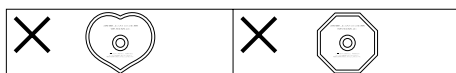
JPEGの再生について

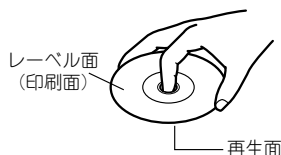
- JPEGとは、写真やイラストなどの画像ファイルを保存する形式(画像フォーマット)のひとつです。
- ISO9660レベル1/レベル2のCD-ROMファイルシステム、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録したディスクを使用してください。
- 本機では、CD-R/CD-RW/CD-ROMに記録されているJEPGファイルを再生することができます(記録方法などによって再生できないこともあります)。
- 総ピクセル数が3072×2048ピクセル以下のベースラインJPEGファイルおよびExif 2.2*に準拠したJPEGファイルの静止画再生に対応しています。
- 「.jpg」、または「.JPG」という拡張子がついたJPEGファイルの静止画像を表示することができます。
- フォルダ名、ファイル名のアルファベット順に、299フォルダ、648ファイルまで認識・再生することができます。ただし、フォルダの構成によっては、すべてのフォルダ、ファイルが認識・再生できない場合があります。
- プログレッシブJPEGには対応していません。
- ファイルサイズが大きいファイルは画像の再生に時間がかかることがあります。

* デジタルスチルカメラ用画像ファイルフォーマット規格（Exif）Ver2.1、JEIDA-49-1998
(社)電子情報技術産業協会 JEITA

ディスクの取り扱いについて

■異型ディスクについて

ハート型や八角形など特殊形状のディスクは使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。

■取り扱いについて

再生面(印刷されていない面)に触れないように、両端をはさむように持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

再生面はもちろんレーベル面に紙やシールを貼ったり、文字を書いたりしないでください。また傷などを付けないようにしてください。

■保管上の注意について

直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど、温度が高くなるところや、極端に温度の低い場所はさけ、必ず専用ケースに入れて保管してください。

■レンタルディスクの注意について

ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの、のりがはみ出したしたり、剥がした跡があるものはお使いにならないでください。ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

■お手入れについて

汚れによる信号読み取りが低減し、音とびや画像の乱れが生じる場合があります。汚れている場合は、再生面についた指紋やホコリを柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。

汚れがひどい場合は、柔らかい布を水で浸し、よく絞ってから汚れをふき取り、そのあと柔らかい布で水気をふき取ってください。
アナログレコード用スプレー、帯電防止剤などは使用できません。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品は絶対に使用しないでください。

■コピー防止について

本機はアナログコピー防止システムに対応しています。
コピー禁止信号が入っているディスクを本機で再生してビデオデッキで録画しても、コピー防止システムが働いて正常に録画されません。

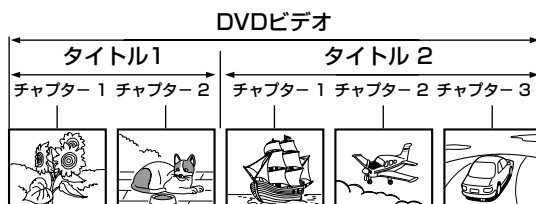
■著作権について

ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル(有償、無償を問わず)することは、法律により禁止されています。

本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。

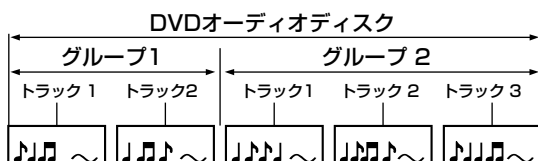
ディスクに関する用語について

■DVDビデオ

- DVDビデオは、「タイトル」という大きな区切りと、「チャプター」という小さな区切りに分かれています。

タイトル：DVDビデオの内容を、いくつかの部分に大きく区切ったものです。短編集の第1話、第2話の「話」に相当します。
チャプター：タイトルの内容を、場面や曲ごとにさらに小さく区切ったものです。上記「話」を分割する第1章、第2章の「章」に相当します。

- DVDビデオの映画ソフトなどでは、ふつう1つの映画が1つのタイトルに対応し、複数のチャプターで構成されています。また、カラオケソフトのように1曲が1タイトルとなっているディスクもありますし、このような区切りになっていないディスクもあります。

■DVDオーディオ

- DVDオーディオは、「グループ」という大きな区切りと、「トラック」という小さな区切りに分かれています。

グループ：ディスクの内容を、いくつかの部分に大きく区切ったものです。
トラック：グループの内容を、曲ごとにさらに小さく区切ったものです。

- 一般的には1曲が1つのトラックに対応しています。また、さらにトラックがインデックスという単位で分けられているディスクもあります。DVDビデオのようにメニューや映像などが収録されているディスクもあります。

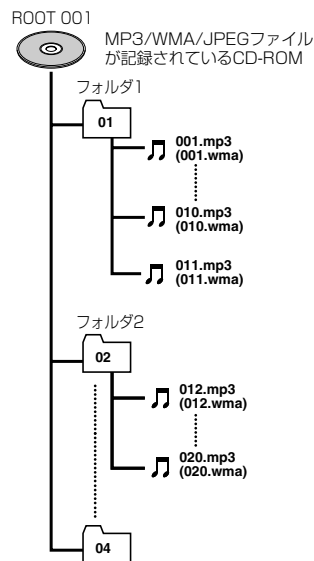
■ビデオCD/SACD/音楽用CD

- ビデオCD/SACD/音楽用CDは、「トラック」で区切られています。

トラック：ビデオCD/SACD/音楽用CDの内容を曲ごとに区切ったものです。

- 一般的には、1曲が1つのトラックに対応しています。また、さらにトラックがインデックスという単位で分けられている場合もあります。

■WMA/MP3/JPEG

WMA/MP3のフォルダ/トラックの名前や、JPEGのフォルダ/ファイルの名前が画面に表示されます。ただし、本機は半角英数字以外の文字には対応していません。半角英数字以外で入力されたフォルダ/トラック/ファイル名は文字化けしたり、[F_001]、[T_001]、[FL_001] のように表示されることがあります。

結露について

本機を冷えた所から暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露と言います。そのままでは正常に働かないばかりではなく、ディスクや部品も痛めてしまいます。結露している場合は、電源を入れて1〜2時間放置してからご使用ください。また、本機をご使用にならないときは、ディスクを取り出しておくことをおすすめします。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

詳しい説明は〔　〕内のページをご覧ください。

STANDBYインジケーター〔23〕
スタンバイ時に点灯し、電源を入れると消灯します。

STANDBY/ONボタン〔23〕
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

PROGRESSIVEインジケーター
映像出力でプログレッシブが選ばれているときに点灯します。

ディスクトレイ〔26〕
ディスクを入れます。

⏏ボタン〔26〕
ディスクトレイを開閉します。

❚❚ボタン〔27〕
映像や音声を再生中に押すと、映像が静止画になり、音声が一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。

■ボタン〔27〕
ディスクの再生を止めます。

►ボタン〔26〕
ディスクを再生します。

DISPLAYボタン〔36〕
表示部の情報を切り換えます。

DIMMERボタン〔25〕
表示部の明るさを切り換えます。

CLEARボタン〔34〕
決定した内容を取り消します。

PLAY MODEボタン〔31、33〕
プレイモード画面を表示します。

リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

表示部
（次ページ参照）

TOP MENUボタン〔45〕
DVDビデオ、DVDオーディオのトップメニュー画面を表示します。

RETURNボタン〔24〕
１つ前の設定画面に戻します。

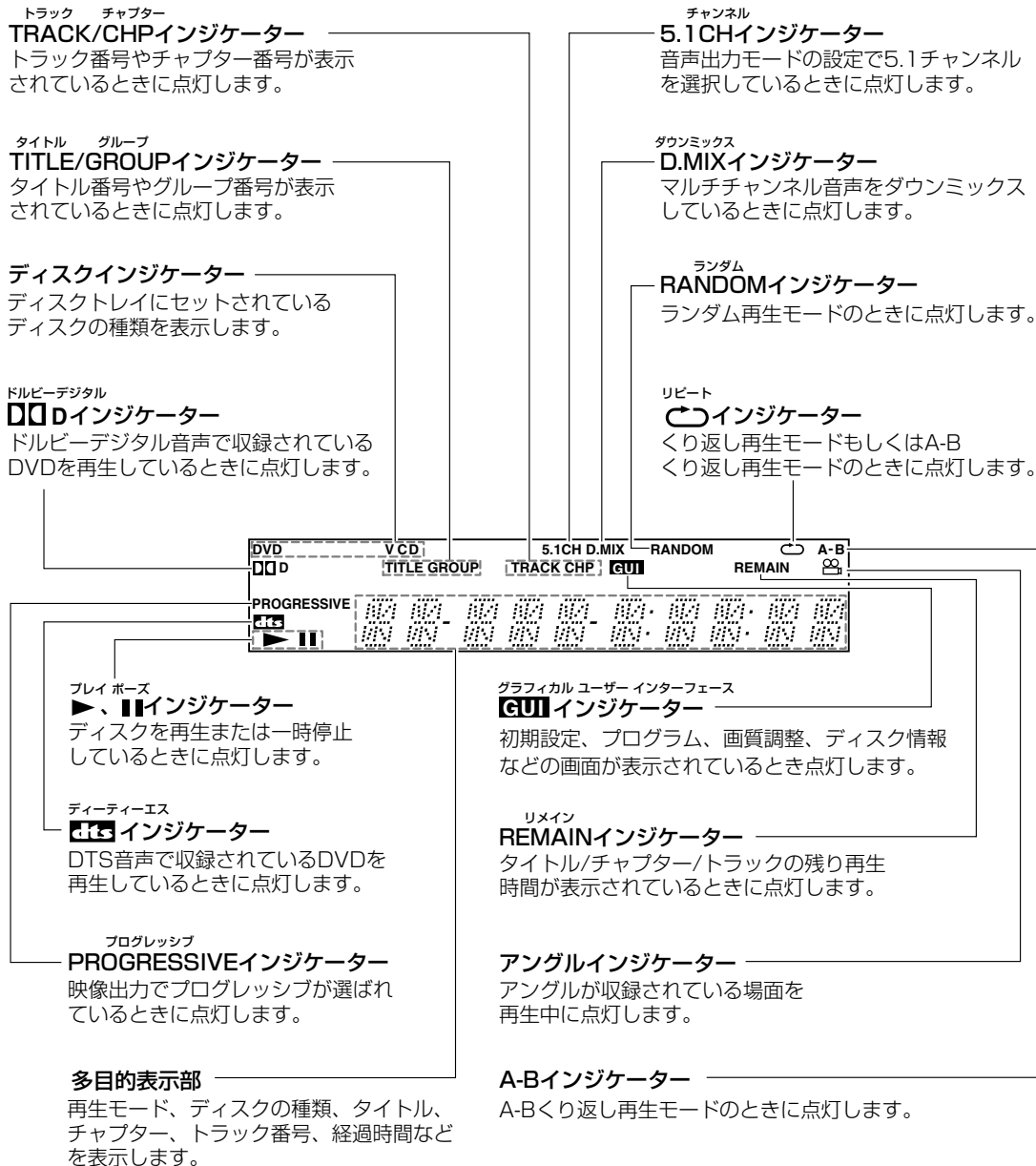
⏮ ⏭ボタン〔28〕
場面や曲の頭出しをします。押し続けると、早送りや早戻しになります。

MENUボタン〔30、36〕
DVDビデオでは、ディスクメニューを表示します。DVD-RW(VR)、ビデオCD、WMA/MP3、JPEGでは、ディスクナビゲーターを表示します。

SETUPボタン〔24〕
設定画面を表示します。

▲/▼/◄/►/ENTERボタン〔24〕
カーソルを上下左右に移動します。中央を押すと選択した項目を決定します。

表示部

DV-SP502(12-16)(SN29343847) 13 04.8.5, 8:44 AM
ブラック

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

オーディオ　アウトプット　サラウンド　センター　サブウーファー
AUDIO OUTPUT SURR/CENTER/SUBWOOFER端子

アナログ5.1チャンネル入力端子のあるAVアンプやサラウンドデコーダーなどと接続するときは、FRONT/D.MIX端子の1または2端子どちらかと、SURR、CENTER、SUBWOOFER端子を使用します。このときは、52ページ「スピーカーの設定をする」の「音声出力モード」の設定で、「5.1チャンネル」を選択してください。
5.1チャンネル音声のフロントの音のみがFRONT/D.MIX L/R端子から出力され、他の音声はSURR、CENTER、SUBWOOFER端子から出力されます。

オーディオ　アウトプット　フロント　ダウンミックス
AUDIO OUTPUT FRONT/D.MIX1/2端子

アナログ音声の出力端子です。テレビやAVアンプなどのステレオ音声入力端子に接続するときは、FRONT/D.MIX端子のみを使用します。1と2には同じ音声が出力されますので、どちらに接続してもかまいません。再生するディスクが5.1チャンネルなどのソースでも、2チャンネルにダウンミックスして出力します。ただし、音声出力モードを5.1チャンネルにしている場合は、ダウンミックスされた音声ではなく、5.1チャンネル音声のフロントの音のみが出力されます。

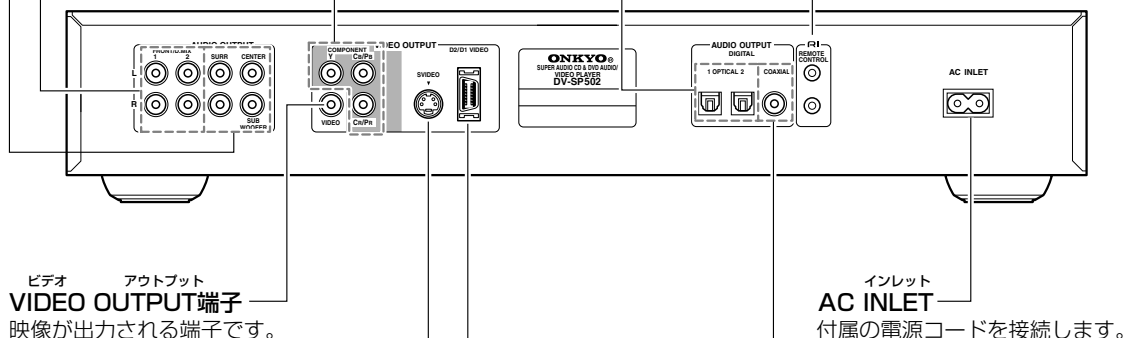
オーディオ　アウトプット　デジタル　オプティカル
AUDIO OUTPUT DIGITAL（OPTICAL）端子

デジタル入力端子付きのAVアンプ、MDレコーダー、CDレコーダーなどと接続する端子です。
市販のオーディオ用光デジタルケーブルを使って接続します。

コンポーネント　ビデオ　アウトプット
COMPONENT VIDEO OUTPUT端子

コンポーネント映像が出力される端子です。
コンポーネント映像入力端子のあるテレビやAVアンプなどと接続します。市販のコンポーネントビデオコードを使って接続します。

RI端子

RI端子付きのオンキヨー製アンプなどと接続し、連動させるための端子です。
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

ビデオ　アウトプット
VIDEO OUTPUT端子

映像が出力される端子です。
テレビやAVアンプなどと接続するときに、付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードを使って接続します。

インレット
AC INLET

付属の電源コードを接続します。

ビデオ　アウトプット
S VIDEO OUTPUT端子

Sビデオ映像が出力される端子です。
Sビデオ端子のあるテレビやAVアンプなどと接続するときに、付属のSビデオコードを使って接続します。

オーディオ　アウトプット　デジタル　コアキシャル
AUDIO OUTPUT DIGITAL（COAXIAL）端子

デジタル入力端子付きのAVアンプ、MDレコーダー、CDレコーダーなどと接続する端子です。
市販のオーディオ用同軸デジタルケーブルを使って接続します。

ビデオ　アウトプット
D2/D1 VIDEO OUTPUT端子

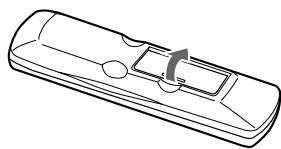
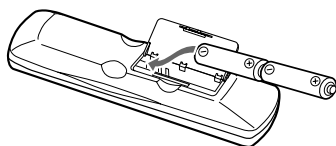
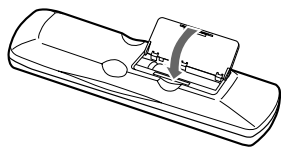
D映像が出力される端子です。
D映像入力端子のあるテレビやAVアンプなどと接続するときに、市販のD映像ケーブルを使って接続します。

リモコン（RC-574DV）

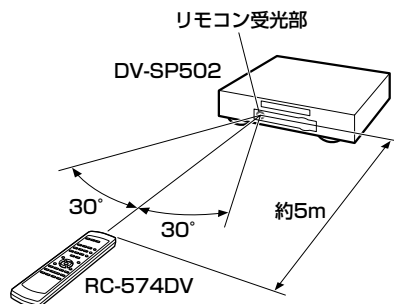
詳しい説明は〔　〕内のページをご覧ください。

リモコンを準備する

乾電池を入れる

① ツメを矢印方向に押して持ち上げ、カバーをはずす。

② 中の極性表示にしたがって、付属の電池2個をプラス⊕、マイナス⊖を間違えないように入れる。

③ カバーを閉める。

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池（単3形）と交換してください。
- 電池の極性（⊕、⊖）は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

リモコンの使いかた

本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

接続をする

映像/音声ケーブルと端子の種類について

映像ケーブルと端子の種類			
ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
コンポーネント ビデオコード		COMPONENT Y CB/PB CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
D端子用 接続コード		D2/D1 VIDEO	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
Sビデオコード	＊	SVIDEO	コンポジットの映像よりよい画質が得られます。本機のSビデオ端子は、S1、S2信号に対応しています。
ビデオコード （コンポジット）	＊	VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

音声ケーブルと端子の種類			
ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
光デジタルケーブル （OPTICAL（オプティカル））			ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
同軸デジタルケーブル （COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
オーディオ用 ピンコード	＊		アナログ音声を伝送します。
アナログ マルチチャンネル 接続コード		AUDIO OUTPUT FRONT/D.MIX 1 2 SURR CENTER L R SUB WOOFER	5.1チャンネルマルチ入力端子のあるAVアンプなどにあります。DVDオーディオやSACDを再生するには接続する必要があります。

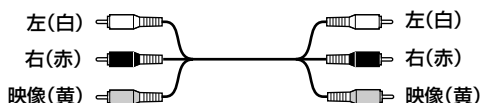
＊印のケーブルは本機に付属しています。ビデオコードとオーディオ用ピンコードは、1本になったものが付属しています。

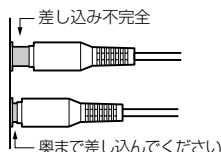
接続をする

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

オーディオ・ビデオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクター（Rの表示）を右チャンネル、白いコネクター（Lの表示）を左チャンネル、黄色のコネクター（Vの表示）をビデオチャンネルに接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

差し込み不完全
奥まで差し込んでください

光デジタル出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

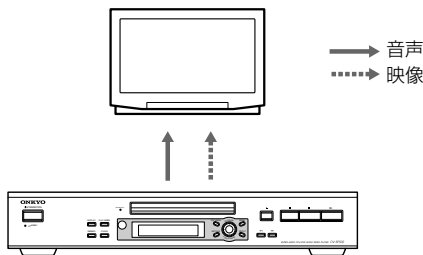
光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。
ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

接続のしくみ

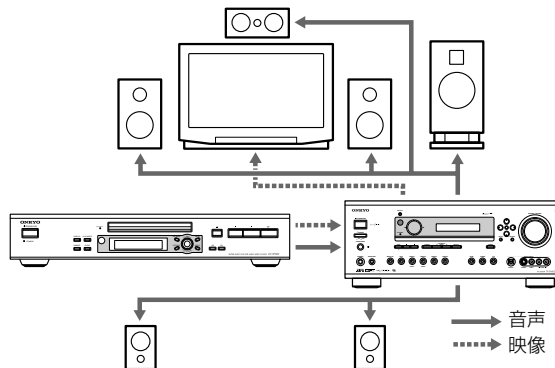
DVDプレーヤーは映像と音声の2種類の信号を出力します。
これらの信号をテレビやAVアンプに接続することで、映画や音楽などを楽しむことができます。ご使用になる環境によって接続方法をお選びください。本機はテレビ画面に設定を表示してご使用いただく機能もありますので、音楽用CDやMP3/WMAのCD-R/CD-RWを再生するときも、必ずテレビと接続してください。

テレビと接続して楽しむ（AVアンプをお持ちでない場合） ➡ 19ページ

手軽にDVDプレーヤーを楽しみたい方におすすめします。

- 本機とテレビのみの簡単接続。
- テレビ内蔵のスピーカーで音声を楽しむことができます。

AVアンプと接続して楽しむ ➡ 20ページ

AVアンプをお持ちの方におすすめします。

- テレビとAVアンプに接続してホームシアターを構築。
- 音声をAVアンプに通すことにより、AVアンプに接続しているスピーカーから臨場感あふれる音声を楽しむことができます。

その他の接続 ➡ 21ページ

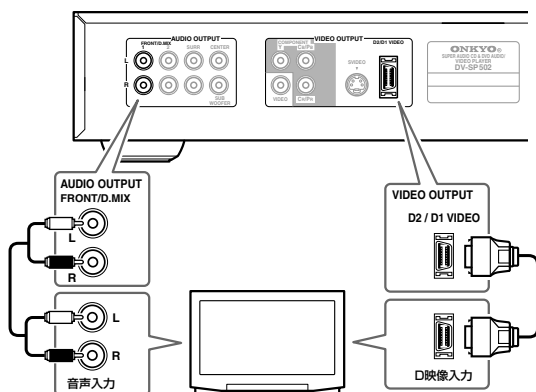
テレビと接続して楽しむ（AVアンプをお持ちでない場合）

映像接続と音声接続が必要です。

1. 映像接続にはD端子接続、コンポーネントビデオ端子接続、Sビデオ端子接続、ビデオ端子接続の4種類があります。
テレビに応じていずれか1種類の接続を行ってください。
2. 音声接続はテレビの音声入力端子と本機のAUDIO（オーディオ） OUTPUT（アウトプット） FRONT（フロント）/D.MIX（ダウンミックス）1または2端子を接続します。

- 接続するテレビの取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、テレビの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。本機の電源コードは、まだ接続しないでください。
- **本機の映像出力は直接テレビに接続してください。**
本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しているため、ビデオデッキを通してテレビに接続したり、ビデオデッキで録画して再生すると、正常な再生ができないことがあります。また、本機をビデオ内蔵テレビに接続すると、コピーガードによって正常な再生ができないことがあります。詳しくはお使いのテレビメーカーにお問い合わせください。
- テレビの音声入力端子がモノラルの場合は、市販のステレオ←→モノラル音声変換ケーブルで接続してください

■テレビにD入力端子があるとき

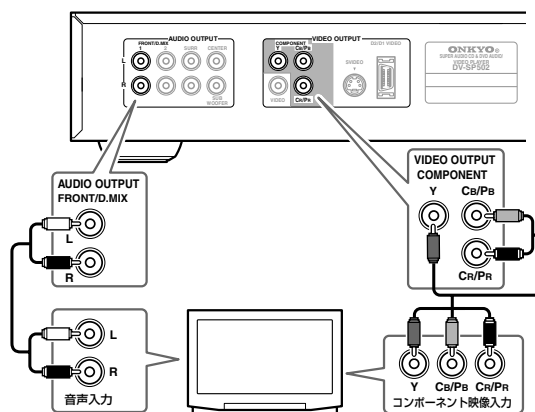
市販のD端子用接続コードでD端子接続をしてください。D端子接続をすると、Sビデオ端子接続よりさらに良い画質を得ることができます。

！ヒント

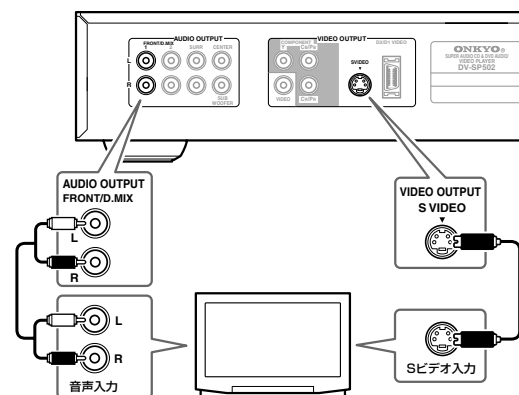
本機のD2/D1 VIDEO端子は、接続するテレビのD1、D2、D3またはD4のいずれの入力端子にも接続することができます。

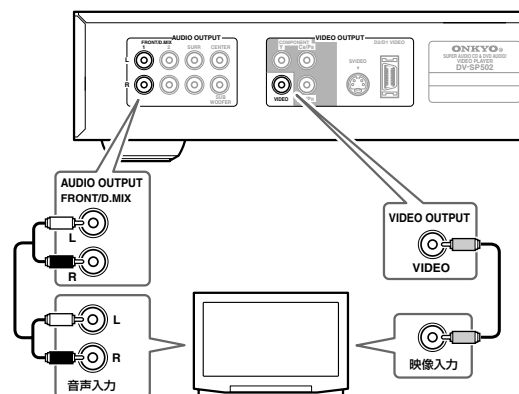
ご注意

プログレッシブ映像をお楽しみになるときは、テレビのD1入力端子以外のD端子に接続してください。

■テレビにコンポーネントビデオ入力端子があるとき

市販のコンポーネントビデオコードでコンポーネントビデオ端子接続をしてください。Sビデオ端子接続よりさらに良い画質を得ることができます。

■テレビにSビデオ入力端子があるとき

付属のSビデオコードでSビデオ端子接続をしてください。通常のビデオ接続よりも良い画質が得られます。

■テレビのビデオ入力端子に接続する

付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードでビデオ端子接続をします。

AVアンプと接続して楽しむ

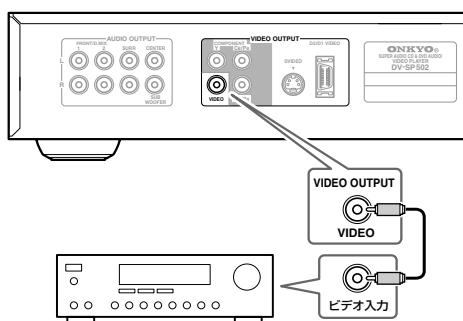
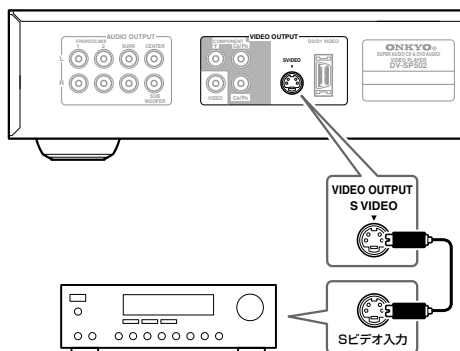
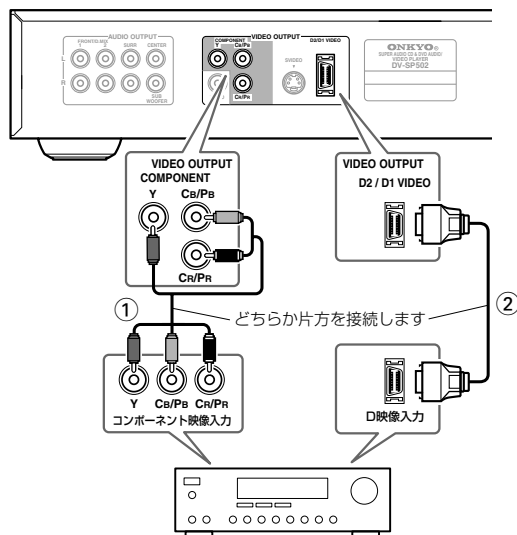
5.1チャンネルサラウンドシステムの接続

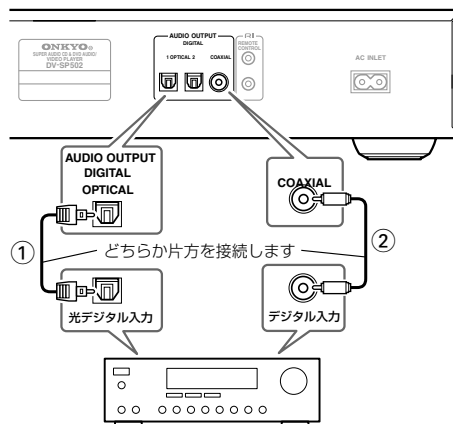
5.1チャンネルサラウンドを楽しむためには以下のような機器が必要です。
- ドルビーデジタル/DTSなどのデジタル入力に対応したAVアンプ、デコーダー
- 5.1chスピーカー（フロント左右/センター/サラウンド左右）＋サブウーファー
- 光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブル
- DTS5.1chサラウンドを楽しむときは「DTS出力」の設定で「DTS」を選択してください。(☞43ページ)

■DVDビデオの5.1chサラウンドを楽しむための接続

映像の接続

以下のいずれかの接続をします。

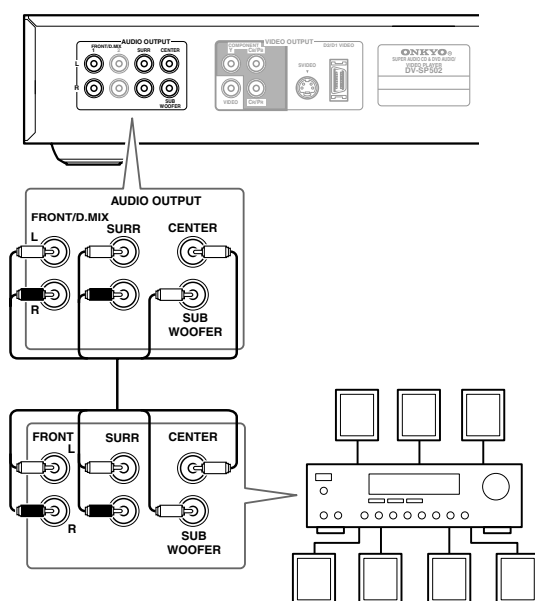
●AVアンプのビデオ入力端子に接続する
付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードでAVアンプのビデオ入力端子と本機のVIDEO OUTPUT VIDEO端子を接続します。

●AVアンプのSビデオ入力端子に接続する
付属のSビデオコードでAVアンプのSビデオ入力端子と本機のVIDEO OUTPUT S VIDEO端子を接続します。ビデオ接続より良い画質が得られます。

●AVアンプのコンポーネント映像入力端子またはD映像入力端子に接続する
① AVアンプにコンポーネント映像入力端子がある場合は、コンポーネントビデオコードで、本機のVIDEO OUTPUT COMPONENT端子と接続します。
S ビデオ接続より良い画質が得られます。
② AVアンプにD映像入力端子がある場合は、D端子用接続コードで、本機のVIDEO OUTPUT D2/D1 VIDEO端子と接続します。
S ビデオ接続より良い画質が得られます。

音声の接続

●AVアンプのデジタル入力端子（OPTICAL（オプティカル）またはCOAXIAL（コアキシャル））に接続する
① AVアンプに光デジタル（OPTICAL）入力端子がある場合は、付属のオーディオ用光デジタルケーブルで、本機のAUDIO OUTPUT DIGITAL（OPTICAL1または2）端子と接続します。
② AVアンプに同軸デジタル（COAXIAL）入力端子がある場合は、市販の同軸デジタルケーブルで、本機のAUDIO OUTPUT DIGITAL COAXIAL端子と接続します。

ご注意
SACDはデジタル音声が出力されません。
21ページの「DVDオーディオやSACDの5.1chサラウンドを楽しむための接続」を行ってください。

■DVDオーディオやSACDの5.1chサラウンドを楽しむための接続（5.1chアナログ音声出力端子に接続して5.1chサラウンドを楽しむ）

- 5.1chアナログ音声出力端子を接続するときは、付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードと別売りの音声コード（2本）またはマルチチャンネル用接続コードが必要です。

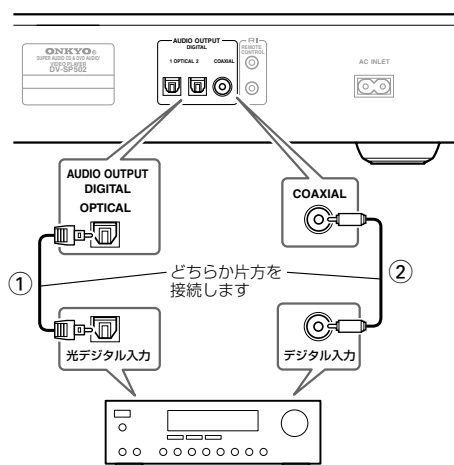
次の設定をしてください。

- 51ページ「SACD再生の設定」で「マルチchエリア」を選択してください。
- 52ページ「スピーカーの設定をする」の「音声出力モード」の設定で「5.1チャンネル」を選択してください。

その他の接続

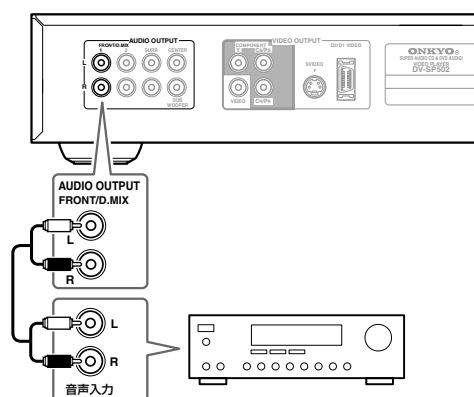
■デジタル音声入力端子のある機器との接続

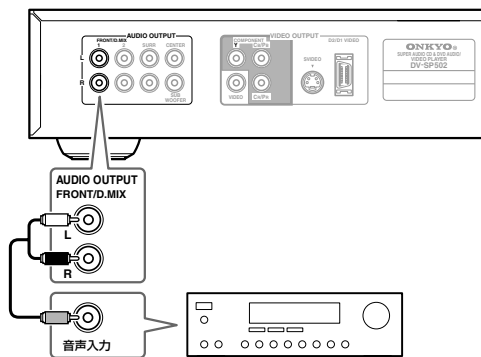
デジタル音声入力端子のあるAVアンプやデジタル録音対応機器（MDレコーダー、CDレコーダー、DATなど）とデジタル接続することができます。光デジタル（OPTICAL）端子と同軸デジタル（COAXIAL）端子に接続する2つの方法があります。

① 接続する機器に光デジタル（OPTICAL）端子がある場合は、付属のオーディオ用光デジタルケーブルで、本機のAUDIO OUTPUT DIGITAL（OPTICAL1または2）端子と接続します。

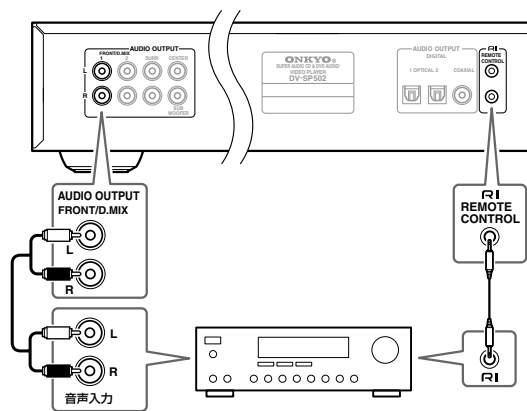
② 接続する機器に同軸デジタル（COAXIAL）端子がある場合は、市販の同軸デジタルケーブルで、本機のAUDIO OUTPUT DIGITAL COAXIAL端子と接続します。

■2chアナログ音声入力端子やモノラル音声入力端子のある機器との接続

●2chアナログ音声入力端子と接続する

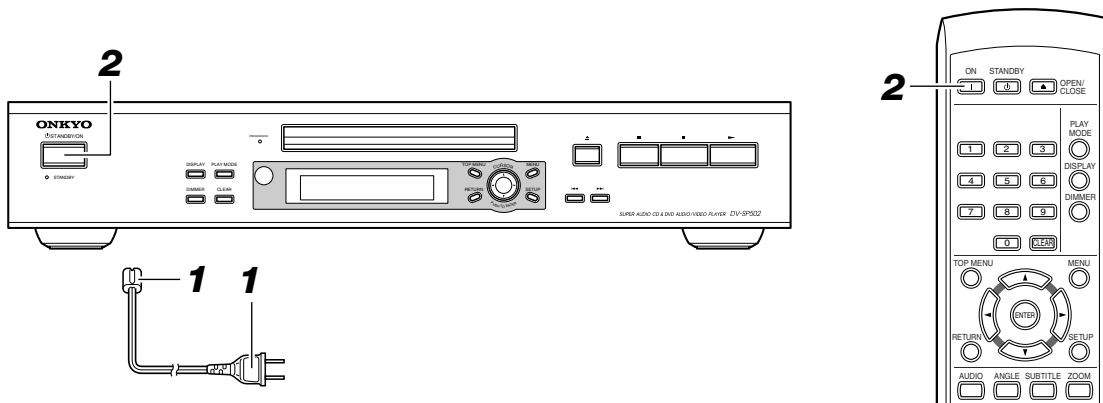
付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードで接続する機器の音声入力端子と本機のAUDIO OUTPUT FRONT/D.MIX（1または2）端子と接続します。

■モノラル音声入力端子のある機器と接続する

別売りのステレオ⟷モノラル音声変換コードで接続する機器のモノラル音声入力端子と本機のAUDIO OUTPUT FRONT/D.MIX（1または2）端子と接続します。

RIケーブルの接続

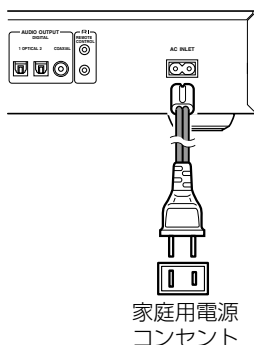
付属のRIケーブルを使ってRI端子の付いたオンキヨー製AVアンプやAVレシーバーなどを接続すると、AVアンプやAVレシーバーなどに付属のリモコンを使って本機を操作することができます。

- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書をご参照ください。
- RI端子はRI端子付き製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- **RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。**

電源を入れる

電源を入れる前に

- 19〜22ページの接続がすべて終了しているか確認してください。（本機はテレビ画面を使って設定や操作をします。テレビの接続は必ず行ってください。）
- 接続しているテレビの電源を入れ、テレビの入力を本機を接続している入力に切り換えます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

1

付属の電源コードを本体後面のAC INLET（インレット）につなぎ、プラグを家庭用電源コンセントに接続する

家庭用電源
コンセント

STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯し、スタンバイ状態になります。

- 付属の電源コード以外の電源コードは使用しないでください。また、付属の電源コードは本機以外の機器には使用しないでください。
- 感電の原因となるため、電源コードのプラグを壁の電源コンセントに接続したまま、本機のAC INLETから電源コードを抜いたり、つないだりしないでください。

2

本体のSTANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンまたは、リモコンのON（オン）ボタンを押して電源を入れる

本体

または

リモコン

表示部に文字がスクロールし、STANDBYインジケーターは消灯します。

！ヒント

- スタンバイ状態で、本体またはリモコンの▶（プレイ）ボタンあるいは▲（オープン/クローズ）ボタンを押すと電源が入ります。
- 電源を切るときは、本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのSTANDBY（スタンバイ）ボタンを押します。

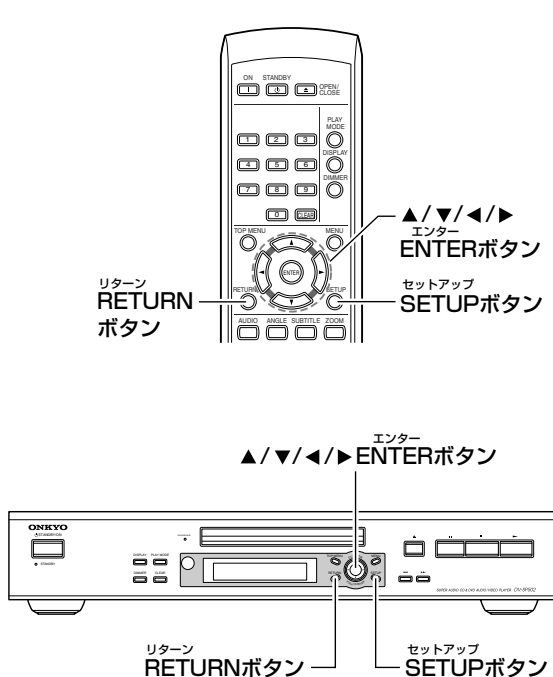
再生を始める前に

オンスクリーンディスプレイについて

本機は接続しているテレビの画面に各種再生操作、映像・音声などの各種設定操作を表示させ、テレビの画面上で簡単に操作ができるオンスクリーンディスプレイ機能を搭載しています。

画面表示について(HOME MENU画面)

画面下部に操作に対応するリモコンのボタンが表示されます。これらはリモコンや本体の以下のボタンに対応しています。また、画面下には選択している項目の簡単な説明が表示されますので、操作の参考にしてください。

▲/▼/◀/▶ENTERボタン

本体	リモコン	操作内容	画面表示
SETUP	SETUP	設定、終了	ホームメニュー
CURSOR PUSH TO ENTER	ENTER	選択	
CURSOR PUSH TO ENTER	ENTER	決定	決 定
RETURN	RETURN	戻る	表示無し

ワイドテレビをお使いの場合

ワイドテレビ（16：9）をお使いの場合、テレビ画面のタイプの設定をしてください。
従来の画面タイプのテレビ（4：3）をお使いの場合は、この設定をせずにお使いいただけます。詳しくは44ページをご覧ください。

1 停止中にリモコンのSETUPボタンを押して設定画面を表示させる

2 ▼ボタンで「初期設定」を選び、ENTERボタンを押す

3 ▼ボタンで「映像出力」を選ぶ

4 ▶ボタンで「テレビ画面」を選ぶ

5 ▶/▼ボタンで「16：9(ワイド)」を選び、ENTERボタンを押す

6 SETUPボタンを押す

設定画面を終了させます。

スクリーンセーバーについて

本機の操作（本体またはリモコンで）を約5分間行わないと、テレビ画面にスクリーンセーバーが表示されます。

基本の再生

再生を始める前に

- DVDビデオ、DVDオーディオ、SACD、ビデオCD、MP3/WMAディスク、JPEGディスク、音楽用CD以外は再生しないでください。
  （☞「ディスクについての予備知識」8～11ページ）
- ディスクを再生するときは、テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。
- テレビやモニターによっては再生時の色の濃さ（カラーレベル）がわずかに薄くなったり、色合い（ティント）が変わったりする場合があります。この場合は、テレビやモニターを調節して適正な状態にしてください。

本文の表記について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

DVD-V DVDビデオ

市販のDVDビデオ、またはビデオモード（DVDビデオフォーマット）にて記録されたDVD-R/RW

DVD-A DVDオーディオ

市販のDVDオーディオ

DVD-RW (VR) DVD-RW(VR)

VRモード（ビデオレコーディングフォーマット）にて記録されたDVD-RW

VCD ビデオCD

ビデオCD

SACD SACD

市販のSACD（スーパーオーディオCD）

CD CD(R/RW)

市販の音楽用CD、またはCDDAフォーマットで音楽が記録されたCD-R/RW

MP3 WMA MP3/WMA

WMAまたはMP3ファイルが記録されたCD-R/RW/ROM

JPEG JPEG

JPEGファイルが記録されたCD-R/RW/ROM

ご注意

- 再生中は本機を移動したり揺らしたりしないでください。ディスクを傷つけるおそれがあります。ディスクトレイが動いているときは、トレイに触れないでください。故障の原因となります。
- ディスクトレイを上から押さないでください。また、本機で再生可能なディスク以外のものをのせないでください。故障の原因となります。
- 映画などの再生が終わると、多くの場合メニュー画面があらわれます。メニュー画面を長く表示させているとそれがテレビ画面に焼き付いて、画面を傷める場合があります。これを避けるため、再生が終わったら、■（ストップ）ボタンを押してください。
- DVDのなかにはディスクをセットするだけで再生するものもあります。このようなディスクの場合、電源を入れるだけでも再生しますので、本機をスタンバイ状態にするときは、ディスクを取り出しておくことをおすすめします。

基本の再生をする
- 再生･停止･早送り/巻き戻し･スキップ
- 再生する曲や場面を数字ボタンで指定
- コマ送り
- スロー再生

→ 27-28ページ

ディスクナビゲーター機能を使って再生する
- ディスク内の内容をテレビ画面で見ながら再生する曲や場面を選ぶことができます

→ 29-30ページ

プレイモード機能を使って再生する
- 指定した部分だけをくり返し再生する（A－Bリピート）
- 曲や場面をくり返し再生する（リピート）
- 順不同に再生する（ランダム）
- お好みの順で再生する（プログラム）
- 見たい場面などを探して再生する（サーチモード）

→ 31-35ページ

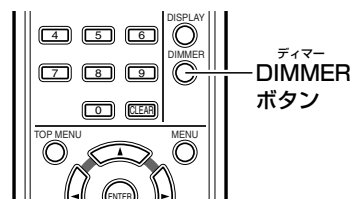
ディスクの情報を見る

→ 36ページ

その他の再生
- 画面を拡大する
- 音声を切り換える
- DVDの字幕言語を切り換える
- DVDのカメラアングルを切り換える
- ビデオCDのPBC再生
- JPEG画像を回転/反転させる

→ 36-39ページ

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。

DIMMER

リモコンのDIMMER（ディマー）ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが3段階に変わります。

基本の再生

再生の手順

1

本体

または

リモコン

本体またはリモコンの▲(オープン/クローズ)ボタンを押して、ディスクトレイを開ける

2

ディスクをディスクトレイに置く

ディスクの印刷面を上にします。

ディスクには2種類のサイズがあります。ディスクトレイのそれぞれのガイド内に収まるように置いてください。

3

本体

または

リモコン

本体またはリモコンの▶(プレイ)ボタンを押す

ディスクトレイが閉まり、再生が始まります。

ディスクによっては、手順***2***の後で▲(オープンクローズ)ボタンを押してディスクトレイを閉じると、自動的に再生が始まります。

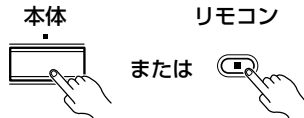
● 表示部にセットしたディスクの種類が表示されます。

■メニュー画面が表示されたら

再生を始めると最初にメニュー画面（ディスクメニュー）を表示するディスクがあります。ディスクメニューの内容や操作方法はディスクによって異なります。ビデオCDのメニュー画面の操作法方については、39ページをご覧ください。メニュー画面が表示されたら、本体やリモコンの▲/▼/◀/▶ボタンやENTER(エンター)ボタンで操作してください。

画面の上下に黒い帯がつくDVDがあります。本機の故障ではありません。

再生を停止する

DVD-V DVD-A DVD-RW(VR) VCD SACD CD MP3/WMA JPEG

本体またはリモコンの■（ストップ）ボタンを押す

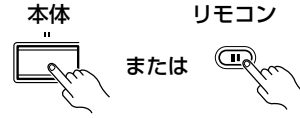
本体の表示部に「RESUME（リジューム）」と表示され、停止した場所を記憶します（リジューム機能）。
DVDを取り出すとラストメモリー機能が働きます。次回、そのDVDを入れて►（プレイ）ボタンを押すと、取り出す前に停止した場所から再生を始めます。（ラストメモリー機能）

止めたところから再生する（リジューム再生）
■ボタンを押してディスクを停止するとその場所を記憶するので、次回は続きから再生を開始します。（リジューム機能）。また、ディスクを取り出してもDVD５枚、ビデオCD１枚分の停止した場所を記憶しています。（ラストメモリー機能）。次回、そのディスクを入れると、取り出す前に停止した場所から再生を始めます。
停止中に■ボタンをもう一回押すと、リジューム機能またはラストメモリー機能が解除され、次に再生するときは、ディスクの最初から開始します。

！ヒント

- DVDオーディオ SACD では、リジューム機能が働きません。また、DVD-RW(VR) DVDオーディオ SACD CD(R/RW) では、ラストメモリー機能が働きません。
- ラストメモリー機能では、別のディスクを記憶すると前のディスクのメモリーが消去されます。
- ラストメモリーを記憶させたくない場合は、■ボタンを押さずに▲（オープン/クローズ）ボタンでディスクを停止させて、取り出してください。

再生を一時停止する

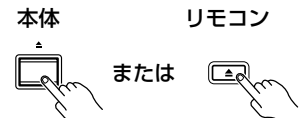
DVD-V DVD-A DVD-RW(VR) VCD SACD CD MP3/WMA JPEG

再生中に本体またはリモコンの❚❚（ポーズ）ボタンを押す

再生を再開するには、再度❚❚ボタン（または►（プレイ）ボタン）を押してください。

スクリーンセーバー画面があらわれたときは…
ディスク再生中、一定時間以上一時停止（ポーズ）状態にしておくと、スクリーンセーバーが働きます。
❚❚（または►）ボタンを押すと再生画面が表示され、再度❚❚ボタン（または►ボタン）を押すと再生が始まります。

オートパワーオフ機能とは…
本機は停止または一時停止状態が30分間続くと、自動的にスタンバイ状態になります。

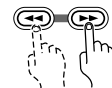
ディスクを取り出す

DVD-V DVD-A DVD-RW(VR) VCD SACD CD MP3/WMA JPEG

本体またはリモコンの▲（オープン/クローズ）ボタンを押して、ディスクトレイを開く

ディスクトレイが完全に開いたら、デイスクを取り出します。その後、再度▲ボタンを押してディスクトレイを閉じてください。

早送り、早戻しをする

DVD-V DVD-A DVD-RW(VR) VCD SACD CD MP3/WMA

リモコン

再生中にリモコンの►►ボタンまたは◄◄ボタンを押す

ボタンを押すごとに早さを4段階まで切り換えることができます。
- 通常の再生に戻すには►ボタンを押します。

頭出し（スキップ）する

DVD-V DVD-A DVD-RW(VR) VCD SACD CD MP3 WMA JPEG

本体

または

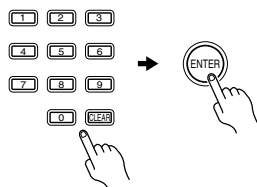
リモコン

再生中に本体またはリモコンの⏮/⏭ボタンを押す

押した回数だけチャプター/トラックをスキップします。

- ビデオCD のPBC再生中（☞39ページ）は、ディスクによって操作す方法が異なります。ディスクに添付されている操作ガイドもあわせてご覧ください。

再生したいタイトル/チャプター/トラックを指定する

DVD-V DVD-A DVD-RW(VR) VCD SACD CD

数字ボタンでタイトル/チャプター/トラックの番号を入力して、ENTER（エンター）ボタンを押す

再生中のタイトル/チャプター/トラック指定の種類

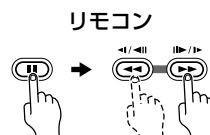
DVDビデオ	DVD-RW(VR)	DVDオーディオ SACD ビデオCD CD(R/RW)
チャプター指定	タイトル指定	トラック指定

！ヒント

- ENTERボタンを押さなくても、2秒以上経過すると自動的に再生を開始します。
- DVDビデオのチャプター指定では、再生中のタイトル内のチャプターのみを指定することができます。
- タイトル/チャプター/トラックを指定できないディスクがあります。
- ディスク停止中に、タイトル/チャプター/トラック指定を行うと、DVDビデオはタイトル指定に、DVDオーディオはグループ指定になります。

コマ送り/コマ戻し再生をする

DVD-V DVD-A DVD-RW(VR) VCD

リモコン

再生中に❚❚（ポーズ）ボタンを押して一時停止させ、❚❚▶/❚▶ボタンまたは◀❚/◀❚❚ボタンを押す

通常の再生に戻すには

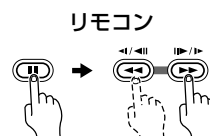
▶（プレイ）ボタンを押します。

！ヒント

- ビデオCDは逆方向のコマ送りができません。
- コマ送り再生は音声が出力されません。
- コマ送り再生できないディスクもあります。
- 再生方向を変更したとき、一瞬映像が動くことがあります。
- 逆方向のコマ送り再生中、映像が揺れることがあります。

映像をスローで見る

DVD-V DVD-RW(VR) VCD

リモコン

再生中に❚❚（ポーズ）ボタンを押して一時停止させ、❚❚▶/❚▶ボタンまたは◀❚/◀❚❚ボタンを押し続ける

- 画面にスローの表示が出たら、手を離してもスロー再生を続けます。
- スロー再生中、ボタンを押すごとに速さを4段階まで切り換えることができます。

通常の再生に戻すには

▶ボタンを押します。

！ヒント

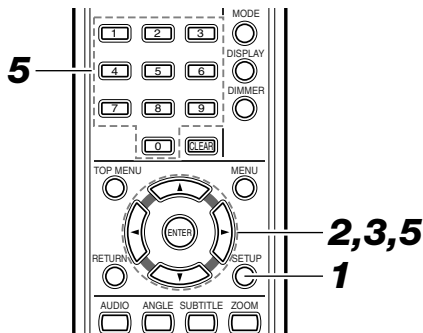
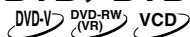
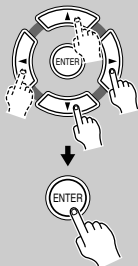
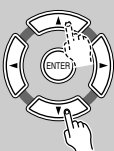
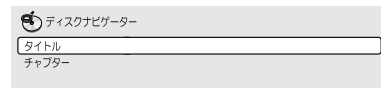
- ビデオCDは逆方向のスロー再生ができません。
- スロー再生中は音声が出力されません。
- スロー再生のできないディスクもあります。

いろいろな再生

ディスクナビゲーターを使って再生する

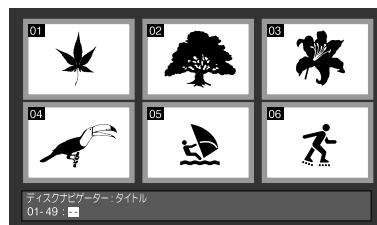
ディスクナビゲーターを使うとディスクの内容をテレビ画面で見ながら、再生するタイトル/チャプター/トラックを選ぶことができます。

DVD、DVD-RW、ビデオCDの場合

DVD-V DVD-RW (VR) VCD

1 ディスクを入れ、SETUP(セットアップ)ボタンを押して、設定画面を表示する

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで「ディスクナビゲーター」を選び、ENTER(エンター)ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンで種類を選ぶ

DVDビデオ	DVD-RW(VR)	ビデオCD
タイトル チャプター	オリジナル：タイトル オリジナル：時間 プレイリスト:タイトル プレイリスト：時間	トラック 時間

！ヒント

「時間」を選ぶと、10分おきの画像を表示します。

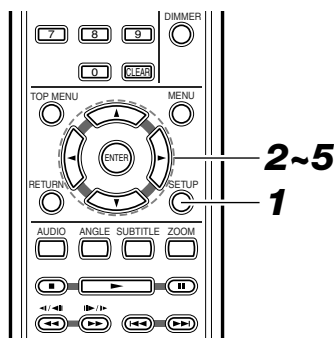
4 先頭の画面が6枚ずつ表示されるので、再生したいタイトルなどを探す

- ▶▶|ボタンを押すと、次の6枚に切り換わります。(|◀◀ボタンで戻ります。)
- SETUP(セットアップ)ボタンを押すと、ディスクナビゲーター画面が終了します。
- RETURN(リターン)ボタンを押すと、ディスクナビゲーターの種類を選択する画面に戻ります。

5 数字ボタンで番号を入力して、ENTERボタンを押す

画面にカーソルを合わせて、ENTERボタンを押しても再生することができます。

！ヒント

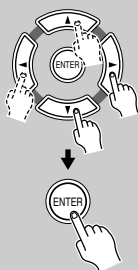
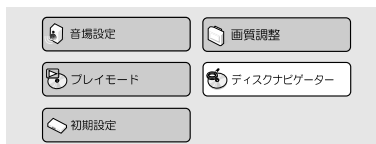
- ビデオCD のPBC再生中はディスクナビゲーター画面を表示することはできません。PBC再生を解除してください。(☞39ページ)
- DVDレコーダーで録画して作られたタイトルを「オリジナル」、オリジナルをもとに編集用に作成したタイトルを「プレイリスト」といいます。
- プレイリストが作成されていないときは、「プレイリスト」を選ぶことはできません。
- 一部の DVDビデオ では、ディスクナビゲーターが使用できない場合があります。

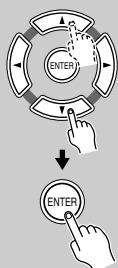
WMA、MP3、JPEGの場合 MP3 WMA JPEG

1

ディスクを入れ、SETUP（セットアップ）ボタンを押して、設定画面を表示する

2

▲/▼/◀/▶ボタンで「ディスクナビゲーター」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

！ヒント

MENU（メニュー）ボタンでディスクナビゲーター画面を表示することもできます。

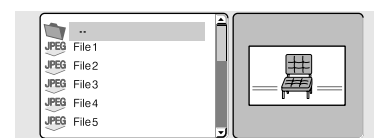
3

▲/▼ボタンでフォルダを選び、ENTERボタンを押す

半角英数字以外の文字には対応していません。半角英数字以外で入力されたフォルダ/トラック／ファイル名は文字化けしたり､｢F_001｣/｢T_001｣/｢FL_001｣のように表示されることがあります。

4

▲/▼ボタンで再生したいトラック/ファイルを選ぶ

MP3/WMA の場合

JPEG の場合

- JPEG でファイルにカーソルを合わせると、選ばれているファイルの画像が表示されます。
- ◀ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

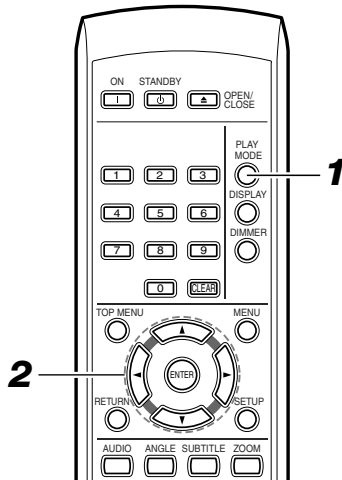
5

ENTERボタンを押す

- 選んだトラック/ファイルから再生が始まります。
- JPEG では、画像が次々に表示されます。（スライドショー）
- スライドショーで表示される画像のアスペクト比が異なるときは、画像の縦、または横に黒帯が出ることがあります。
- SETUPボタンを押すと、ディスクナビゲーター画面は終了します。

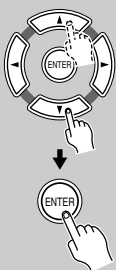
！ヒント

- MP3/WMA JPEG では、ディスク情報の読み込み中に、画面に｢読込中｣と表示されます。表示が消えてから再生してください。
- ‥を選びENTERボタンを押しても、上の階層に戻すことができます。
- ディスクナビゲーターを使うと、フォルダごとの再生となります。フォルダをまたいで再生したいときは、ディスクをセットしたあとに、►（プレイ）ボタンを押して再生を始めてください。

プレイモードを使ったいろいろな再生

ご注意

ビデオCDのPBC再生はプレイモード画面を表示することができません。PBC再生を解除してから操作してください。
(☞39ページ)

1 PLAY MODEボタンを押して、プレイモード画面を表示させる

- ディスクメニューを表示中はプレイモード画面を表示することができません。

2 ▲/▼ボタンで項目を選び、ENTERボタンを押す

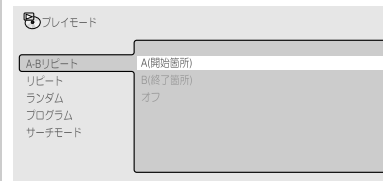
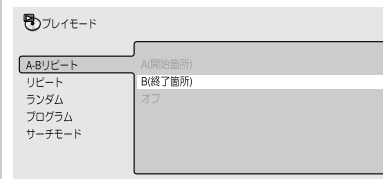
A−Bリピート	：再生中の指定した範囲をくり返し再生します。
リピート	：くり返し再生します。
ランダム	：順不同に再生します。
プログラム	：好みの順番で再生します。
サーチモード	：見たい場面などを探して再生します。

！ヒント

プレイモード画面はSETUPボタンを押して、設定画面から表示することもできます。

A−Bリピート再生(指定した部分だけをくり返し再生する) DVD-V DVD-RW(VR) VCD CD

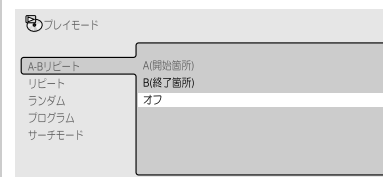
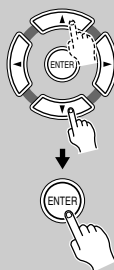
再生中にプレイモード画面を表示させ、「A−Bリピート」を選んでください。

1 「A（開始箇所）」を選び、くり返したい始めの場所で、ENTERボタンを押す

2 「B（終了箇所）」を選び、くり返したい終わりの場所で、ENTERボタンを押す

ENTERボタンを押すと、自動的に「A（開始箇所）」に戻りA−Bリピート再生が始まります。

ご注意

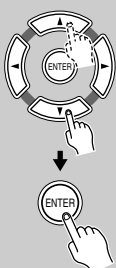
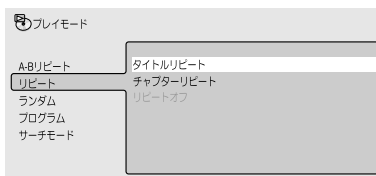
- 異なるタイトルをまたいでA−Bリピート再生をすることはできません。
- A−Bリピート再生ができないディスクもあります。

通常の再生に戻すには

「オフ」を選び、ENTERボタンを押します。

リピート再生（くり返し再生する）

DVD-V DVD-A DVD-RW (VR) VCD SACD CD

再生中にプレイモード画面を表示させ、「リピート」を選んでください。

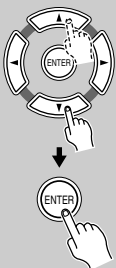
1

再生中にリピート再生の種類を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

選んだ種類のリピート再生が始まります。

リピート再生の種類
タイトルリピート
グループリピート
チャプターリピート
ディスクリピート
トラックリピート
プログラムリピート

● リピート再生の種類は再生しているディスクによって異なります。

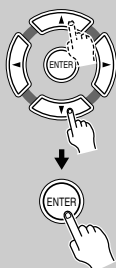
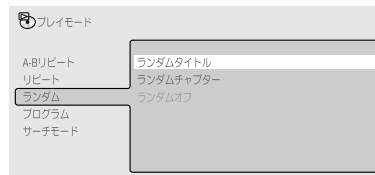
！ヒント

- プログラム再生中にリピートモードにすると、プログラムをくり返し再生します。
- リピート再生できないディスクもあります。
- ビデオCD のPBC再生はプレイモード画面を表示することができません。PBC再生を解除してから操作してください。(☞39ページ)

通常の再生に戻すには
「リピートオフ」を選び、ENTERボタンを押します。

ランダム再生（順不同に再生する）

DVD-V DVD-A VCD SACD CD

再生中にプレイモード画面を表示させ、「ランダム」を選んでください。

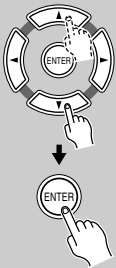
1

ランダム再生の種類を選び、ENTERボタンを押す

選んだ種類のランダム再生が始まります。

ランダム再生の種類
ランダムタイトル：
　タイトルを順不同に再生します。
ランダムチャプター：
　チャプターを順不同に再生します。
ランダムグループ：
　グループを順不同に再生します。
ランダムトラック：
　再生中のグループ内のトラックを順不同に再生します。
ランダムオール(ランダムオン)：
　ディスク内のトラックを順不同に再生します。

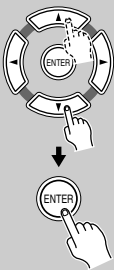
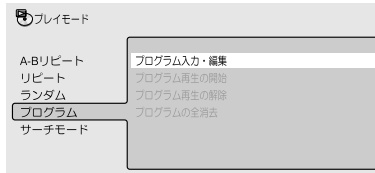
● ランダム再生の種類は再生しているディスクによって異なります。

！ヒント

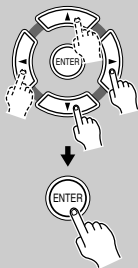
- ディスクを停止するか、「ランダムオフ」を選択するまで、ランダム再生を続けます。
- ランダム再生中に▶▶|ボタンを押すと、順不同に次のタイトルなどを選択して再生します。また、|◀◀ボタンを押すと、現在再生中のタイトルなどの始めに戻り再生します。
- 現在再生中のタイトルなどより前のタイトルなどに戻ることはできません。
- ランダム再生とプログラム再生を同時に行うことはできません。
- ランダム再生できないディスクもあります。
- 毎回ランダムに選ぶため。同じタイトルなどを何度も再生することがあります。
- ビデオCD のPBC再生はプレイモード画面を表示することができません。PBC再生を解除してから操作してください。(☞39ページ)

通常の再生に戻すには
「ランダムオフ」を選び、ENTERボタンを押します。

プログラム再生（お好みの順で再生する）

DVD-V DVD-A VCD SACD CD

再生中にプレイモード画面を表示させ、「プログラム」を選んでください。

1 「プログラム入力・編集」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

プログラム入力画面が表示されます。
プログラム入力画面はセットしているディスクの種類により異なります。

DVDビデオの場合

プログラム
プログラムステップ　タイトル 1-3　チャプター 1-36
01. 01　タイトル 01　チャプター 001
02.　タイトル 02　チャプター 002
03.　タイトル 03　チャプター 003
04.　チャプター 004
05.　チャプター 005
06.　チャプター 006
07.　チャプター 007
08.　チャプター 008

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで希望のタイトル/チャプター/グループ/トラックを選び、ENTERボタンを押す

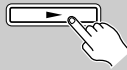
タイトルの中に入っているチャプターを選ぶ場合は、▶ボタンでカーソルをチャプターの項に移動し、▲/▼ボタンで希望のチャプターを選び、ENTERボタンを押します。

- 選んだタイトルおよびチャプターがプログラムステップの項に表示されます。

ご注意

プログラム入力中にRETURN（リターン）ボタンを押すと、プログラムした内容が無効になります。

3 手順*2* をくり返し、希望のタイトルまたはチャプターをプログラムする

最大24ステップまでプログラムすることができます。

4 ▶（プレイ）ボタンを押してプログラム再生を始める

プログラム再生しないでプログラム画面を終了するには、PLAY MODE（プレイ モード）ボタンまたはSETUP（セットアップ）ボタンを押します。
（RETURN（リターン）ボタンを押すと、プログラムが消去されますのでご注意ください。）

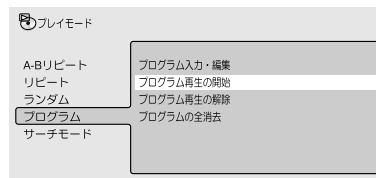
！ヒント

- タイトルなどが変わるときに、プログラムしていないタイトルなどの映像が見えることがあります。これは故障ではありません。
- 一時停止をプログラムすることはできません。
- プログラム再生をリピートする(くり返す)ことができます。プログラム再生中にプレイモード画面の**[リピート]**から**[プログラムリピート]**を選択します。
  (☞32ページ)
- プログラム再生をランダム（順不同に）再生することはできません。
- プログラム再生中に▶▶|ボタンを押すと、次のプログラムステップのタイトル/チャプターを再生します。
- ビデオCDのPBC再生中は、プレイモード画面を表示することができません。PBC再生を解除してから操作してください。(☞39ページ)

ご注意

ディスクを取り出したときや本機をスタンバイ状態にしたときは、プログラムが消去されます。

プログラムメニューのその他の機能

プレイモード画面を表示させ、「プログラム」を選んでください。

プログラム再生の開始
すでにプログラムされている内容を始めから再生します。

プログラム再生の解除
通常の再生に戻ります。
プログラム内容はそのまま残ります。

プログラムの全消去
プログラムされている内容をすべて消去します。

ステップの間にプログラムを追加するには

プレイモード画面を表示させ、「プログラム」を選んでください。

例：プログラムステップ02の前にタイトル1のチャプター7を追加するには

1

▲/▼ボタンで「プログラム入力・編集」を選び、ENTERボタンを押す

すでにプログラムされているプログラム画面が表示されます。

プログラム
プログラムステップ
01. 01
02. 02 ー 001
03. 01 ー 005
04. 03
05.
06.
07.
08.
タイトル(1-03)
タイトル 01
タイトル 02
タイトル 03
チャプター(1-036)
チャプター 001
チャプター 002
チャプター 003
チャプター 004
チャプター 005
チャプター 006
チャプター 007
チャプター 008

2

◀ボタンでプログラムステップに移動し、▲/▼ボタンでカーソルをプログラムステップ02に合わせてENTERボタンを押す

3

▲/▼/▶ボタンでタイトル1のチャプター7を選び、ENTERボタンを押す

プログラムステップ02にタイトル1のチャプター7が追加されます。もともとプログラムステップ02にあったプログラムは追加したプログラムの後ろに移動します。

プログラムをプログラムステップの最後に追加するには…

上記「ステップの間にプログラムを追加するには」の手順***1***を行った後、▲/▼ボタンでカーソルを最後のプログラムの後に移動し、希望のタイトル/チャプターを選び、ENTERボタンを押します。
選んだタイトル/チャプターがプログラムの最後に追加されます。

プログラムを消去するには

プレイモード画面を表示させ、「プログラム」を選んでください。

例：プログラムステップ02を消去する

1

▲/▼ボタンで「プログラム入力・編集」を選び、ENTERボタンを押す

すでにプログラムされているプログラム画面が表示されます。

プログラム
プログラムステップ
01. 01
02. 02 ー 001
03. 01 ー 005
04. 03
05.
06.
07.
08.
タイトル(1-03)
タイトル 01
タイトル 02
タイトル 03
チャプター(1-036)
チャプター 001
チャプター 002
チャプター 003
チャプター 004
チャプター 005
チャプター 006
チャプター 007
チャプター 008

2

▲/▼ボタンでカーソルをプログラムステップ02に合わせる

プログラム
プログラムステップ
01. 01
02. 02 ー 001
03. 01 ー 005
04. 03
05.
06.
07.
08.
タイトル(1-03)
タイトル 01
タイトル 02
タイトル 03

3

CLEARボタンを押す

プログラムステップ02のプログラムが消去され、その後にあったプログラムが1つ前にくり上がります。

！ヒント

プログラム再生しないでプログラム画面を終了するには、PLAY MODEボタンまたはSETUPボタンを押して画面を消してください。

サーチモード（見たい場面などを探して再生する）DVD-V DVD-A DVD-RW (VR) VCD SACD CD

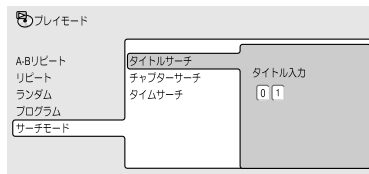
再生中にプレイモード画面を表示させ、「サーチモード」を選んでください。

1

▲/▼ボタンでサーチモードの種類を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

使用しているディスクによりサーチできる種類が異なります。

タイトルサーチ
チャプターサーチ
グループサーチ
トラックサーチ
タイムサーチ
（ビデオCDでは、再生中のトラック内の時間を指定して再生します。）

例：タイトルサーチを選んだとき

2

数字ボタンで再生したいタイトル/チャプター/グループ/トラックまたは時間を入力する

時間は「分」に換算して入力します。たとえば、1時間14分の場合は、74分00秒となります。

入力例：
3を選ぶには「3」を押します。
10を選ぶには「1」と「0」を押します。
37を選ぶには「3」と「7」を押します。
21分43秒を選ぶには「2」、「1」、「4」、「3」と押します。
74分00秒を選ぶには「7」、「4」、「0」、「0」と押します。

3

ENTERボタンを押す

指定したタイトル/チャプター/トラックまたは時間から再生が始まります。

！ヒント

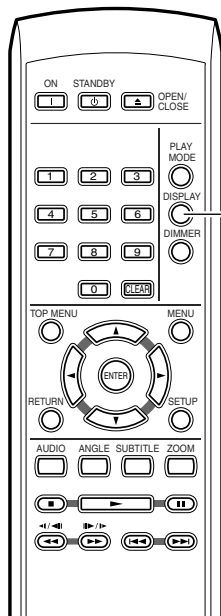
- DVDオーディオには、静止画が収録されているディスクがあります。（☞59ページ）静止画の種類によって、静止画の番号（ページ）を指定してサーチすることができます。
- DVDビデオでは、ディスクメニューで見たい場面を探す（サーチ）ことができるディスクがあります。この場合は、リモコンのMENU（メニュー）ボタンでディスクメニューを表示させてサーチしてください。

ご注意

- ビデオCD のPBC再生はプレイモード画面を表示することができません。PBC再生を解除してから操作してください。（☞39ページ）
- DVDオーディオ SACD ではタイムサーチができません。

いろいろな再生

ディスクの情報を見る

DVD-V DVD-A DVD-RW (VR) VCD SACD CD MP3 WMA JPEG

ディスプレイ
DISPLAYボタン

再生中にDISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押す

ボタンを押すごとに経過時間や残量などのディスク情報が表示されます。

例：DVDビデオ
1回押すと･･･
タイトル情報画面

現在再生中のタイトルの情報が表示されます。

- ディスクによっては、DISPLAYボタンを押すごとに表示内容が切り換わります。
- DISPLAYボタンを数回押すと、表示が「オフ」になります。

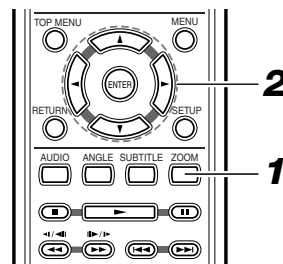
！ヒント

ビデオCD のPBC再生中は、一部の情報が表示されません。PBC再生を解除してください。（☞39ページ）

画面をズーム（拡大）するには

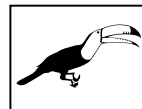
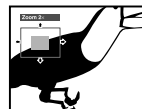
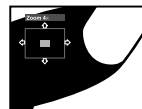
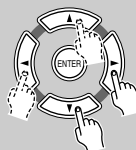
DVD-V DVD-RW (VR) VCD JPEG

再生中、一時停止中に好みの部分をズーム（拡大）することができます。

1

再生中、一時停止中にZOOM（ズーム）ボタンを押して、画面をズーム（拡大）する

ズームエリア（拡大する場所）が左上に表示されます。
ボタンを押すたびに下記のように切り換わります。

→2×（2倍）→ 4×（4倍）→ 標準 →

標準

2×（2倍）

4×（4倍）

2

ズームエリア表示中に▲/▼/◀/▶ボタンでカーソルを好みの場所に移動する

ご注意

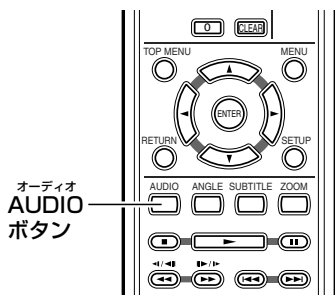
- 約5秒間ボタン操作がないと、ズームエリアが消えます。さらに倍率を変えたいときは、もう一度ZOOMボタンを押してズームエリアを表示してください。
- ズーム中は字幕が表示されません。
- DVDのメニュー画面を表示中に映像をズームすると、項目を選択することができません。通常の映像に戻してから、選択してください。

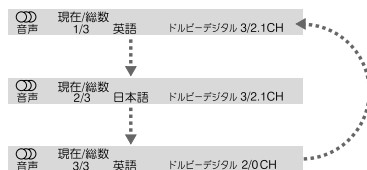
！ヒント

- JPEG では、►（プレイ）ボタンを押してスライドショーに戻すこともできます。
- 拡大すると画像精度は、粗くなります。

音声を切り換える

DVD-V DVD-A DVD-RW (VR) VCD CD

複数の言語で音声が記録されているディスクでは、再生する音声言語を切り換えることができます。

再生中にAUDIO（オーディオ）ボタンを（くり返し）押して、希望の音声言語を選ぶ

例：

＊3/2.1CHはディスクに記録されている音声のチャンネル数です。

- DVDビデオの中にはディスクメニューから音声言語を選ぶディスクもあります。このような場合は、TOP MENU（トップ メニュー）ボタンを押してください。
- DVDオーディオ の再生中にAUDIOボタンで音声を切り換えると、そのトラックの始めから再生を行います。
- 音声言語の初期設定については「音声言語を設定する」（☞45ページ）をご覧ください。
- ディスクによっては音声を切り換えたとき、一瞬静止画になることがあります。
- ここで切り換えた音声の設定は、リジューム機能を解除したとき、またはラストメモリーを記憶させないでディスクを取り出したときに初期設定に戻ります。

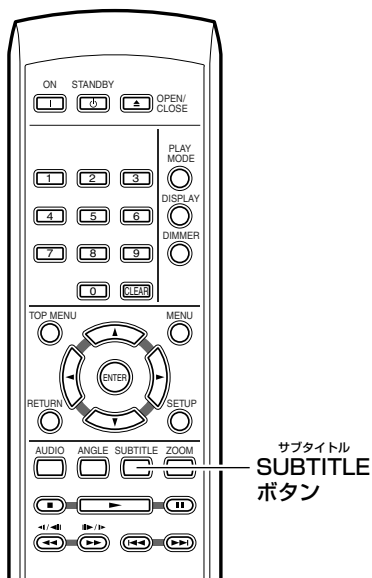
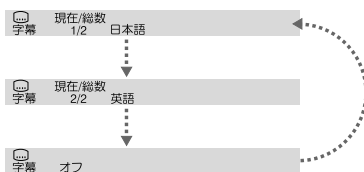
！ヒント

- ビデオCD CD(R/RW) では、ステレオ、左、右が切り換わります。
- 2ヵ国語で記録された DVD-RW(VR) では、主・副・主/副音声が切り換わります。

いろいろな再生

DVDビデオのいろいろな再生

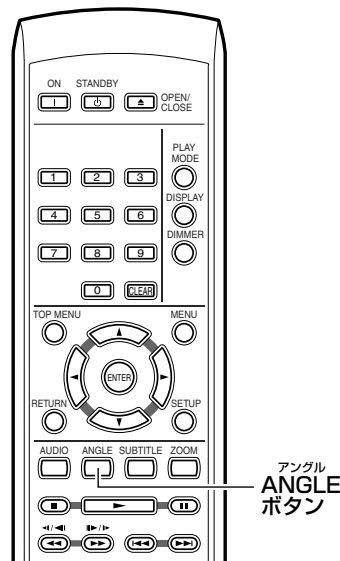
字幕言語を切り換える DVD-V

複数の言語で字幕が記録されているDVDビデオでは、表示する字幕を変更することができます。

再生中にSUBTITLEボタンを（くり返し）押して、希望の字幕言語を選ぶ

＊字幕が収録されていないときは「_ _」（アンダーバー）が表示されます。

- DVDビデオの中にはディスクメニューからサブタイトルを選ぶディスクもあります。このような場合は、TOP MENUボタンを押してください。
- 字幕言語の初期設定については「字幕言語を設定する」(☞45ページ）をご覧ください。
- ここで切り換えた字幕言語の設定は、リジューム機能を解除したとき、またはラストメモリーを記憶させないでディスクを取り出したときに初期設定に戻ります。

カメラアングルを切り換えるには DVD-V

複数の方向（アングル）から映した映像を収録したDVDビデオでは、再生中にアングルを切り換えることができます。複数のアングルが収録されたDVDのジャケットには🎥マークが付いています。

1

🎥マークが表示されたら、ANGLEボタンを押す

複数のアングルが収録されている場所にくると、🎥マークがテレビ画面に表示されます。

🎥 アングル	現在/総数 2/4

2

さらにANGLEボタンを押して、お好みのアングルを選ぶ

押すたびに、アングルが切り換わります。

テレビ画面上の🎥マークを消すには…

🎥マークを表示させたくないときは、初期設定画面の「アングルマーク表示」を「オフ」にします（☞48ページ)。

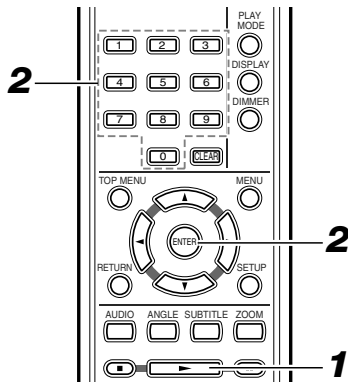
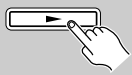
！ヒント

- ディスクによっては🎥マークが表示されてもアングルを切り換えることができないものがあります。
- ディスクのメニュー画面でアングルを切り換えることができるディスクもあります。

ビデオCDのいろいろな再生 VCD

メニュー画面から再生する（PBC再生）

ビデオCDでは、メニュー画面に従って再生することをPBC(プレイバックコントロール)再生といいます。ディスクによって操作方法が異なります。ディスクに添付されている操作ガイドもあわせてご覧ください。

1

PBC再生対応ディスクを入れ、▶（プレイ）ボタンを押す

ビデオCDカラオケ

1	Stand up!	Rock
2	Hello!	Pops
3	Over the Mountain	R&B
4	Help Me!	Jazz
5	It's fine today	Pops

メニュー画面が表示されます。
- ディスクによって、表示内容が異なります。

2

数字ボタンで再生したいトラックを選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

再生を始めます。
- 再生中にRETURN（リターン）ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

メニュー画面のページをめくる、または戻すには…

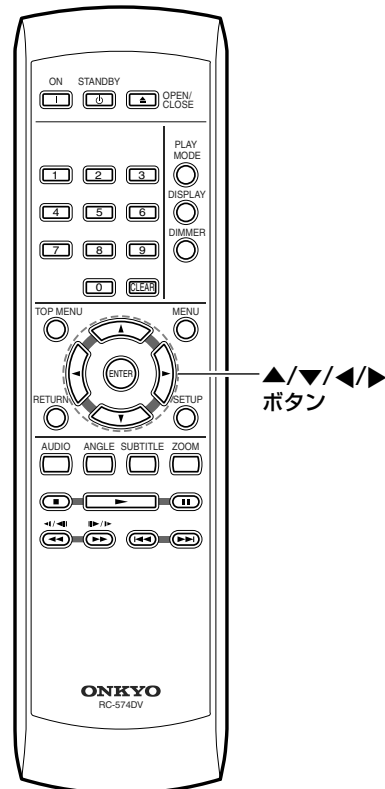
メニュー画面を表示中に▶▶|ボタン、または|◀◀ボタンを押します。

■メニュー画面を出さずに再生するには（PBC再生を解除して再生する）

以下のいずれかの操作で再生してください。
- 停止中に|◀◀ボタン、または▶▶|ボタンで選ぶ
- 停止中に数字ボタンで再生するトラックを選び、ENTERボタンを押す

JPEGのいろいろな再生 JPEG

JPEG画像を回転/反転させる

▲/▼/◀/▶
ボタン

▲/▼/◀/▶ボタンを押す

▶ボタン：押すたびに画像が右回りに90˚回転します。

◀ボタン：押すたびに画像が左回りに90˚回転します。

▲ボタン：画像の上下が反転します。

▼ボタン：画像の左右が反転します。

！ヒント

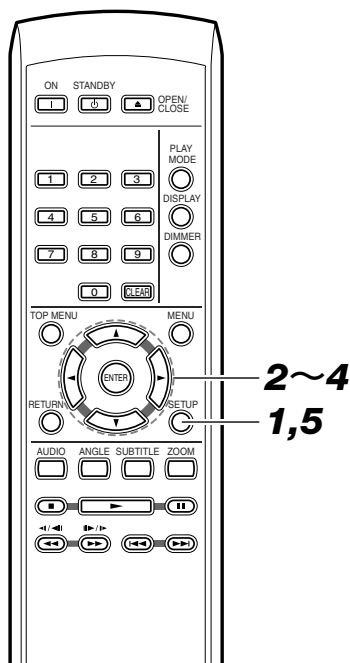
画像を回転しているときはスライドショーが一時停止します。通常のスライドショーに戻すには、▶（プレイ）ボタンを押します。

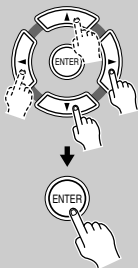
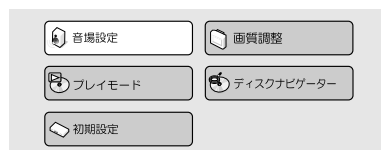
設定をする

音場設定

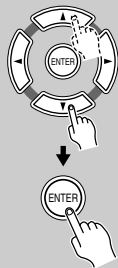
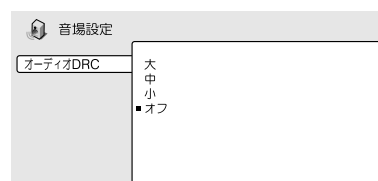
ダイナミックレンジを調整する（オーディオDRC）

オーディオDRC（ダイナミックレンジコントロール）を切り換えることで、大きい音を小さく、小さい音を大きくして再生することができます。例えば、映画のセリフなどが聞きづらいときや、深夜に映画を見るようなときに効果があります。
● オーディオDRCはドルビーデジタル音声にのみ働きます。

1

SETUP（セットアップ）ボタンを押して、設定画面を表示させる

2

▲/▼/◀/▶ボタンで「音場設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

3

「オーディオDRC」でENTERボタンを押す

4

▲/▼ボタンで「大」、「中」、「小」または「オフ」を選び、ENTERボタンを押す

大、中、小：爆発音などの大音量を抑え、セリフなどが聞きやすくなります。「大」になるにつれて、効果が大きくなります。

オフ：オーディオDRCを解除します。

！ヒント

- オーディオDRCはデジタル音声出力端子から出力される音声にも効果があります。ただし、デジタル音声出力の「デジタル出力」を「オン」に設定して、さらに「ドルビーデジタル出力」を「DDigital >PCM」に設定してください。（☞43ページ）
- オーディオDRCの効果は、ご使用になっているスピーカー、テレビまたはAVアンプの音量設定などによっても変わります。実際に設定を切り換えながら、最も効果的な設定を選択してください。

5

SETUP

SETUPボタンを押す

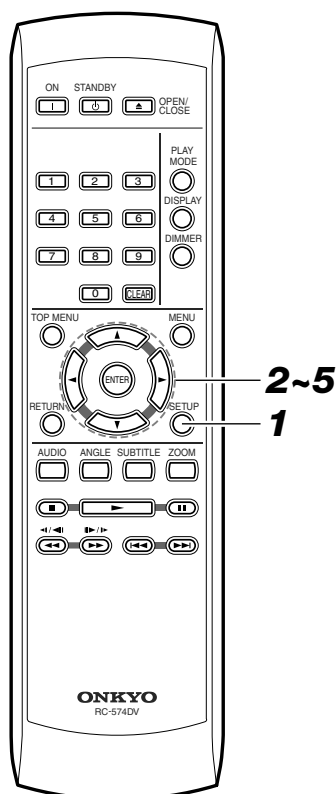
設定画面を終了させます。

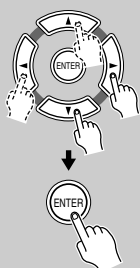
！ヒント

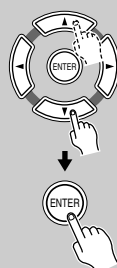
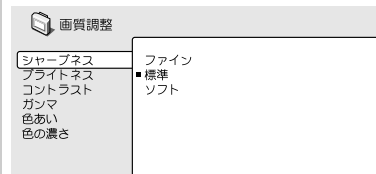
- RETURN（リターン）ボタンを押すと、1つ前の画面に戻ることができます。
- 再生するディスクによって、あまり効果がない場合もあります。

画質調整

画質を調整する

1

SETUP（セットアップ）ボタンを押して、設定画面を表示させる

2

▲/▼/◀/▶ボタンで「画質調整」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

3

▲/▼ボタンで「項目」を選び、ENTERボタンを押す

シャープネス：
画像の鮮明度を調整します。
- ファイン、標準、ソフト（お買い上げ時の設定：標準）

ブライトネス：
画面の明るさを調整します。
- －20～＋20（お買い上げ時の設定：0）

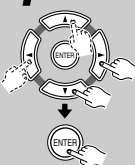
コントラスト：
最も明るい部分と最も暗い部分の明るさの比率を調整します。
- －16～＋16（お買い上げ時の設定：0）

ガンマ：
画像の暗い部分の見えかたを調整します。
- 大、中、小、オフ（お買い上げ時の設定:オフ）

色あい：
緑色と赤色のバランスを調整します。
- 緑9～赤9（お買い上げ時の設定：0）

色の濃さ：
色の濃さを調整します。色のりの多いアニメなどで効果があります。
- －9～＋9（お買い上げ時の設定：0）

BNR：
映像のブロックノイズを軽減します。
- オン、オフ（お買い上げ時の設定：オフ）

4

▲/▼/◀/▶ボタンで各項目を設定し、ENTERボタンを押して決定する

5

手順*3*、*4* をくり返してすべての項目を調整し、SETUPボタンを押す

ご注意

- すでに画質設定が記憶されているときは、新しく設定した内容に上書きされます。
- ディスクやテレビ（モニター）によっては効果がはっきりしないことがあります。

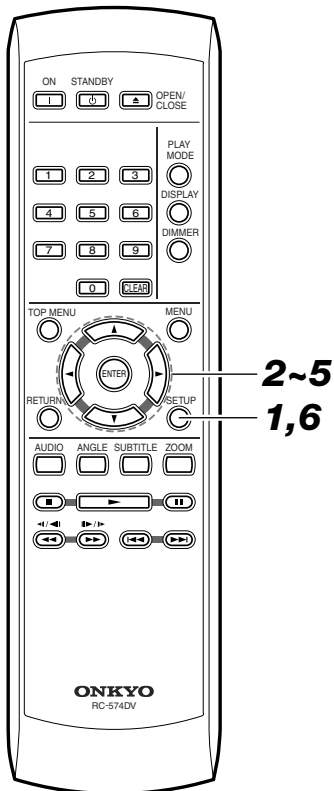
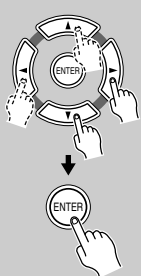
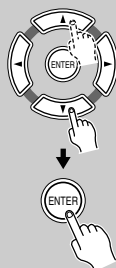
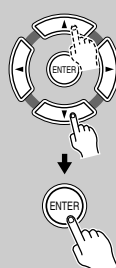
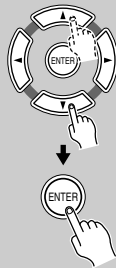
！ヒント

RETURN（リターン）ボタンを押すと、1つ前の画面に戻ることができます。

設定をする

初期設定

初期設定画面の操作のしかた

初期設定画面では、言語、音声出力などをお好みの設定にすることができます。
- 設定画面で変更できない項目は灰色で表示されます。
- 停止状態で操作してください。

1 SETUP(セットアップ)ボタンを押して、設定画面を表示させる

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで「初期設定」を選び、ENTER(エンター)ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンで左側の設定を選び、ENTERボタンを押す

4 ▲/▼ボタンで中央の項目から変更したい設定を選び、ENTERボタンを押す

5 ▲/▼ボタンで設定を変更し、ENTERボタンを押す

6 手順*3*〜*5*をくり返してすべての項目を調整し、SETUPボタンを押す

設定画面を終了させます。

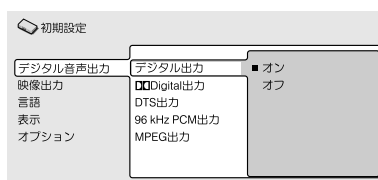
！ヒント

RETURN(リターン)ボタンを押すと、1つ前の画面に戻ることができます。

「デジタル音声出力」の設定をする

本機に接続したAVアンプが対応しているデジタル信号の種類を選択することができます。お手持ちのAVアンプの取扱説明書もあわせてお読みください。初期設定画面の操作のしかたについては前ページをご覧ください。

デジタル出力

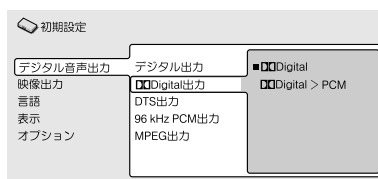
接続したAVアンプがデジタル出力に対応しているときは、設定を「オン」にします。
この設定は、本機のAUDIO OUTPUT DIGITAL OPTICAL 1/2、COAXIAL端子すべてに反映されます。

オン：
本機後面のデジタル出力端子から音声を出力します。
（お買い上げ時の設定）

オフ：
本機後面のデジタル出力端子からは音声は出力されません。

！ヒント

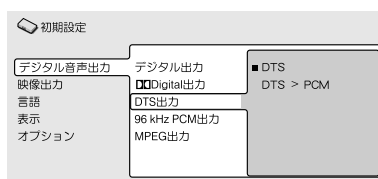
SACD はデジタル出力しません。DVDオーディオ はマルチチャンネル音声をダウンミックスして出力されます。この場合、デジタル出力できないディスクもあります。

Digital出力（ドルビーデジタル）

接続したAVアンプがドルビーデジタルに対応していない場合は、設定を「Digital>PCM」にします。

Digital（ドルビーデジタル）：
ドルビーデジタルに対応しているAVアンプまたはデコーダーと接続したときに選びます。（お買い上げ時の設定）

Digital>PCM（ドルビー）：
ドルビーデジタル信号をリニアPCM信号に変換して出力します。ドルビーデジタルに対応していないAVアンプと接続したときに選びます。

DTS出力

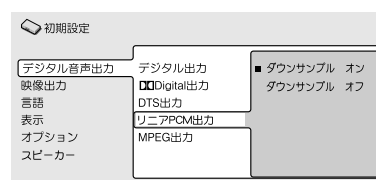
接続したAVアンプがDTS対応のときは、設定を「DTS」にします。

DTS：
DTS対応AVアンプまたはデコーダーと接続したときに選びます。（お買い上げ時の設定）

DTS>PCM：
DTS信号をリニアPCM信号に変換して出力します。DTSに対応していないAVアンプと接続するときに選択します。

ご注意

- DTSに対応していないAVアンプに接続しているときに「DTS」を選ぶとノイズが発生することがあります。
- DTS>PCMに設定する場合、DTSマルチチャンネルのダウンミックス方法を選択することができます。

リニアPCM出力

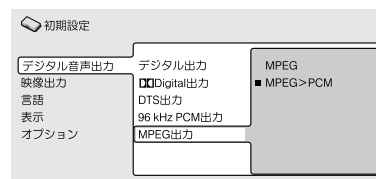
接続したAVアンプやデコーダーが96kHzに対応しているときは、「ダウンサンプルオフ」を選択します。

ダウンサンプルオン：
96kHzに対応していないAVアンプと接続したときに選びます。各系統の音声周波数を48/44.1kHzにダウンサンプリングして出力します。（お買い上げ時の設定）

ダウンサンプルオフ：
96kHzに対応しているAVアンプまたはデコーダーと接続したときに選びます。

！ヒント

DVDオーディオ の192/176.4kHzサンプリング音声のとき、「ダウンサンプルオフ」を選択していてもデジタル出力は強制的に96/88.2kHzにダウンサンプルされます。また、著作権保護されている場合は、自動的に48/44.1kHzに変換されます。（96/88.2kHzリニアPCM音声を含む）このようなDVDは高音質のアナログ音声出力でお楽しみください。

MPEG（エムペグ）出力

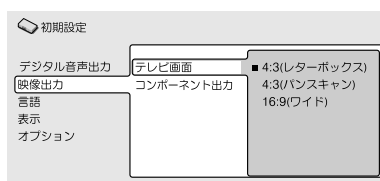
接続したAVアンプがMPEGマルチチャンネル対応のときは、設定を「MPEG」にします。

MPEG：
MPEGマルチチャンネルに対応しているAVアンプと接続したときに選びます。

MPEG>PCM：
MPEG信号をリニアPCM信号に変換して出力します。MPEGに対応していないAVアンプと接続したときに選びます。（お買い上げ時の設定）

設定をする

「映像出力」の設定をする

テレビ画面（テレビにあわせて映像の縦横比を選ぶ）

本機に接続したテレビにあわせて設定します。ワイドテレビの場合は「16：9（ワイド）」に設定します。DVDの映画の多くは、ワイドテレビに対応しており、画面の比率（一般にアスペクト比と呼ばれています）が横16：縦9で記録されていますので、DVDを従来サイズのテレビで見ると、映像が横4：縦3となり縦長になってしまいます。このような見えかたをなくすために、従来サイズのテレビをお使いのときは、「4：3（レターボックス）」、または「4：3（パンスキャン）」に設定してください。この設定を再生中に変更することはできません。

4:3（レターボックス）：

従来サイズのテレビと接続し、16：9の映像をレターボックス方式(画面の上下に黒い帯を入れて、4：3の画面で16：9の映像を再現する方式)で見たいときに選択します。（お買い上げ時の設定）

4:3（パンスキャン）：

従来サイズのテレビと接続し、16：9の映像をパンスキャン方式（16：9の映像の左右をカットして、4：3の画面全体に映し出す方式）で見たいときに選択します。

16:9（ワイド）：

ワイドテレビと接続したとき選択します。

！ヒント

- アスペクトの切り換えができるか、できないかはディスクによって異なります。
  詳しくはディスクのジャケットなどで確認してください。
- テレビ側の設定もご確認ください。

お使いのテレビに合わせて、下記のように本機の[テレビ画面]の設定をしてください。

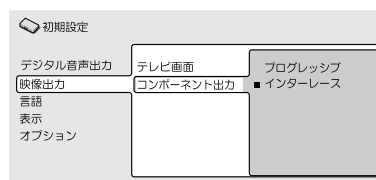
お使いのテレビが従来サイズ（4：3）のとき

本機の設定	映像の見えかた	
（4：3）（レターボックス）	16：9の映像	4：3の映像
（4：3）（パンスキャン）	16：9の映像	4：3の映像

お使いのテレビがワイドテレビ（16：9）のとき

本機の設定	映像の見えかた	
（16：9）（ワイド）	16：9の映像	4：3の映像

コンポーネント出力（インターレース/プログレッシブを切り換える）

コンポーネント映像出力端子、またはD1/D2映像出力端子に出力される映像をインターレースかプログレッシブにするかを設定します。

インターレース：
プログレッシブ入力対応でないテレビまたはプロジェクターのときに選択します。(お買い上げ時の設定)

プログレッシブ：
きめ細かな映像が得られる高画質モードで、プログレッシブ入力対応のテレビまたはプロジェクターとコンポーネント端子/D端子接続（☞18、19ページ）しているときに選択します。

- 「プログレッシブ」を選択してENTER(エンター)ボタンを押すと確認の画面が出ます。変更する場合は、ENTERボタンを押してください。変更しない場合は、その他のボタンを押してください。

ご注意

- 「プログレッシブ」と「インターレース」を切り換えるとき映像が乱れることがあります。
- 「プログレッシブ」と「インターレース」を再生中に切り換えることはできません。ディスクを停止させてから切り換えてください。
- テレビのD1端子と接続している場合は、インターレースを選んでください。
- プログレッシブ入力に対応していないテレビとコンポーネント端子/D端子接続しているときは、「プログレッシブ」を選択しないでください。正常な映像が出力されません。誤って「プログレッシブ」を選択してしまったときは、以下の方法で「インターレース」に切り換えてください。

「プログレッシブ」⇒「インターレース」

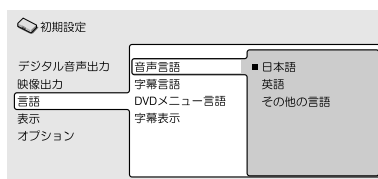
1. **本機をスタンバイ状態にする**
   電源が入っているときは、本体のSTANDBY/ON(スタンバイ オン)ボタンまたはリモコンのSTANDBYボタンを押します。
2. **本体の|◀◀ボタンを押しながら、STANDBY/ON(スタンバイ オン)ボタンを押す**
   映像出力が「インターレース」に切り換わります。

本機とプログレッシブ対応テレビとの互換性について
一部のプログレッシブ対応テレビは本機と完全な互換が取れていないため、画像に乱れが生じる場合があります。プログレッシブ再生時に不具合が生じた場合は本機の出力を「インターレース」に切り換えてください。

「言語」の設定をする

DVDビデオの中には1枚のディスクに複数の字幕や音声を収録し、お客様が目的に合わせて好きなように選べる機能を持っているものがあります。ここでは初期設定画面の「言語」にあるさまざまな言語と字幕に関する設定を行います。初期設定画面の操作のしかたについては42ページをご覧ください。

音声言語を設定する

DVDビデオの音声言語を変更します。

日本語：
音声言語が日本語になります。(お買い上げ時の設定)

英語：
音声言語が英語になります。

その他の言語：
136言語の中から任意の音声を選びます。詳しくは46ページの「字幕言語/音声言語/DVDメニュー言語の設定で「その他の言語」を選んだとき」をご覧ください。

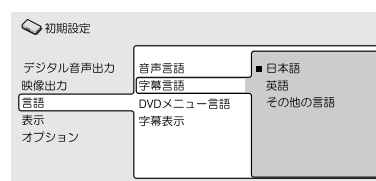
ご注意

- ディスクによっては、ディスクで決められている音声の言語になることがあります。
- ディスクによっては、音声の言語をディスクメニューで選択するものもあります。この場合はTOP MENU(トップ メニュー)ボタンを押して、ディスクメニューを表示させてから、音声の言語を選択してください。

！ヒント

再生中にAUDIO(オーディオ)ボタンで切り換えることもできます。ただし、設定内容を変更し記憶することはできません。

字幕言語を設定する

DVDビデオの字幕言語を変更します。

日本語：
日本語の字幕を表示します。(お買い上げ時の設定)

英語：
英語の字幕を表示します。

その他の言語：
136言語の中から任意の音声を選びます。詳しくは46ページの「字幕言語/音声言語/DVDメニュー言語の設定で「その他の言語」を選んだとき」をご覧ください。

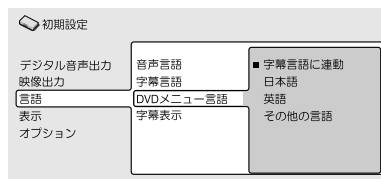
！ヒント

再生中にSUBTITLE(サブタイトル)ボタンで切り換えることもできます。ただし、設定内容を変更し、記憶することはできません。

ご注意

- ディスクによっては、ディスクで決められている字幕の言語になることがあります。
- ディスクによっては、字幕の言語をディスクメニューで選択するものもあります。この場合はTOP MENUボタンを押して、ディスクメニューを表示させてから、字幕の言語を選択してください。

DVDメニュー言語を設定する

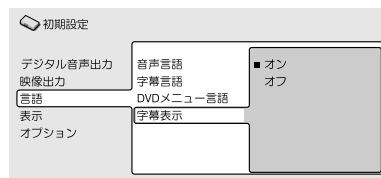
DVDビデオのディスクメニューに表示する言語を変更します。

字幕言語に連動：
「字幕言語」で選択されている言語でメニュー画面が表示されます。（お買い上げ時の設定）

日本語：
日本語でメニュー画面が表示されます。

英語：
英語でメニュー画面が表示されます。

その他の言語：
136言語の中から任意の言語を選びます。詳しくは右項の「字幕言語/音声言語/DVDメニュー言語の設定で「その他の言語」を選んだとき」をご覧ください。

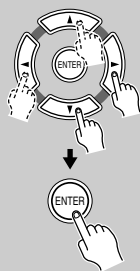
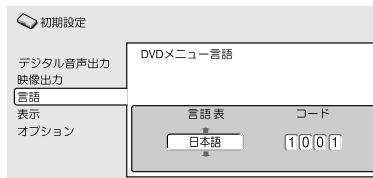
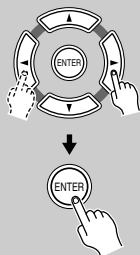
字幕表示をオン/オフする

DVDビデオの字幕を表示する/しないを設定します。

オン：
字幕を表示します。（お買い上げ時の設定）

オフ：
字幕を表示しません。ただし、DVDビデオの中には強制的に字幕を表示するものがあります。

字幕言語/音声言語/DVDメニュー言語の設定で「その他の言語」を選んだとき

言語コード表（次ページ）にある136言語の中から選ぶことができます。DVDに収録されていない言語を設定したときは、収録されているいずれかの言語でメニュー画面が表示されます。

1

「その他の言語」を選んで、ENTER（エンター）ボタンを押す

2

◀/▶ボタンで「言語表」または「コード」を選び、ENTERボタンを押す

「コード」で言語を選ぶとき
以下のいずれかの操作をします。

例　フランス語を選ぶ場合
- 数字ボタンの0、6、1、8を押す
- 1桁ごとに▲/▼ボタンを押して数字を選択する（◀/▶ボタンを押して桁を移動します）

「言語表」で言語を選ぶとき

例　フランス語を選ぶ場合
- ▲ボタンを2回押す

言語コード表

言語名(言語コード)	入力コード
日本語 (ja)	1001
English (en)	0514
French (fr)	0618
German (de)	0405
Italian (it)	0920
Spanish (es)	0519
Chinese (zh)	2608
Dutch (nl)	1412
Portuguese (pt)	1620
Swedish (sv)	1922
Russian (ru)	1821
Korean (ko)	1115
Greek (el)	0512
Afar (aa)	0101
Abkhazian (ab)	0102
Afrikaans (af)	0106
Amharic (am)	0113
Arabic (ar)	0118
Assamese (as)	0119
Aymara (ay)	0125
Azerbaijani (az)	0126
Bashkir (ba)	0201
Byelorussian (be)	0205
Bulgarian (bg)	0207
Bihari (bh)	0208
Bislama (bi)	0209
Bengali (bn)	0214
Tibetan (bo)	0215
Breton (br)	0218
Catalan (ca)	0301
Corsican (co)	0315
Czech (cs)	0319
Welsh (cy)	0325
Danish (da)	0401
Bhutani (dz)	0426
Esperanto (eo)	0515
Estonian (et)	0520
Basque (eu)	0521
Persian (fa)	0601
Finnish (fi)	0609
Fiji (fj)	0610
Faroese (fo)	0615
Frisian (fy)	0625
Irish (ga)	0701
Scots-Gaelic (gd)	0704
Galician (gl)	0712
Guarani (gn)	0714

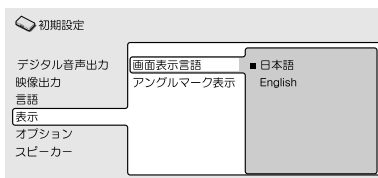
言語名(言語コード)	入力コード
Gujarati (gu)	0721
Hausa (ha)	0801
Hindi (hi)	0809
Croatian (hr)	0818
Hungarian (hu)	0821
Armenian (hy)	0825
Interlingua (ia)	0901
Interlingue (ie)	0905
Inupiak (ik)	0911
Indonesian (in)	0914
Icelandic (is)	0919
Hebrew (iw)	0923
Yiddish (ji)	1009
Javanese (jw)	1023
Georgian (ka)	1101
Kazakh (kk)	1111
Greenlandic (kl)	1112
Cambodian (km)	1113
Kannada (kn)	1114
Kashmiri (ks)	1119
Kurdish (ku)	1121
Kirghiz (ky)	1125
Latin (la)	1201
Lingala (ln)	1214
Laothian (lo)	1215
Lithuanian (lt)	1220
Latvian (lv)	1222
Malagasy (mg)	1307
Maori (mi)	1309
Macedonian (mk)	1311
Malayalam (ml)	1312
Mongolian (mn)	1314
Moldavian (mo)	1315
Marathi (mr)	1318
Malay (ms)	1319
Maltese (mt)	1320
Burmese (my)	1325
Nauru (na)	1401
Nepali (ne)	1405
Norwegian (no)	1415
Occitan (oc)	1503
Oromo (om)	1513
Oriya (or)	1518
Panjabi (pa)	1601
Polish (pl)	1612
Pashto, Pushto (ps)	1619
Quechua (qu)	1721

言語名(言語コード)	入力コード
Rhaeto-Romance (rm)	1813
Kirundi (rn)	1814
Romanian (ro)	1815
Kinyarwanda (rw)	1823
Sanskrit (sa)	1901
Sindhi (sd)	1904
Sangho (sg)	1907
Serbo-Croatian (sh)	1908
Sinhalese (si)	1909
Slovak (sk)	1911
Slovenian (sl)	1912
Samoan (sm)	1913
Shona (sn)	1914
Somali (so)	1915
Albanian (sq)	1917
Serbian (sr)	1918
Siswati (ss)	1919
Sesotho (st)	1920
Sundanese (su)	1921
Swahili (sw)	1923
Tamil (ta)	2001
Telugu (te)	2005
Tajik (tg)	2007
Thai (th)	2008
Tigrinya (ti)	2009
Turkmen (tk)	2011
Tagalog (tl)	2012
Setswana (tn)	2014
Tonga (to)	2015
Turkish (tr)	2018
Tsonga (ts)	2019
Tatar (tt)	2020
Twi (tw)	2023
Ukrainian (uk)	2111
Urdu (ur)	2118
Uzbek (uz)	2126
Vietnamese (vi)	2209
Volapük (vo)	2215
Wolof (wo)	2315
Xhosa (xh)	2408
Yoruba (yo)	2515
Zulu (zu)	2621

設定をする

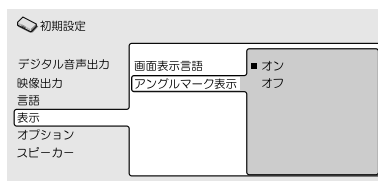
「表示」の設定をする

画面に表示される言語を切り換える

画面に表示される言語を日本語と英語に切り換えることができます。

日本語：
画面に表示される言語が日本語になります。（お買い上げ時の設定）

English：
画面に表示される言語が英語になります。

アングルマーク（）を表示する

再生中に画面に表示されるマークを表示させたくないとき設定を変更します。

オン：
画面にマークを表示します。（お買い上げ時の設定）

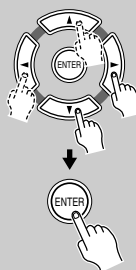
オフ：
画面にマークを表示しません。

「オプション」の設定をする

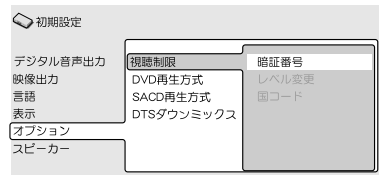
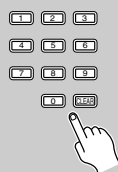
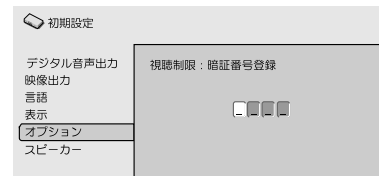
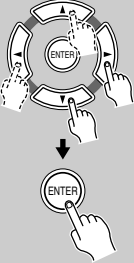
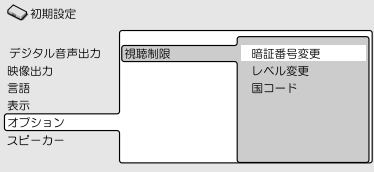
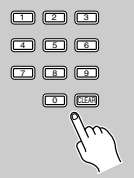
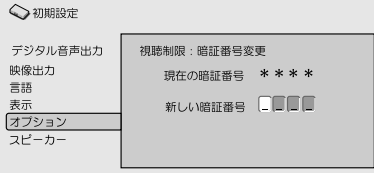
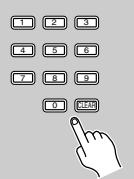
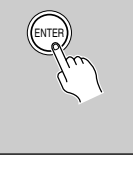
視聴制限をする（パレンタルロック）

暴力シーンなどを含むDVDビデオの中には、視聴制限のレベルを設けたものがあります（ディスクのジャケットなどの表示で確認できます）。本機のレベルをディスクのレベルより小さく設定しておくと、これらのディスクの視聴を制限することができます。例えば、本機のレベルを6に設定しておくと、レベル7のディスクは再生することができません。レベル7のディスクを再生するためには、あらかじめレベルを7以上に設定しておく必要があります。この視聴制限は国ごとに異なる規制レベルにしたがって働く機能です。国コードをあらかじめ設定しておくと、この「国ごとに異なる規制」が可能になります。初期設定画面の操作のしかたについては42ページをご覧ください。

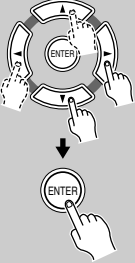
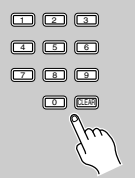
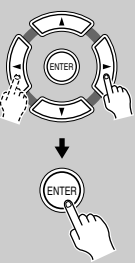
暗証番号を登録する

1

▲/▼/◀/▶ボタンで「オプション」→「視聴制限」→「暗証番号」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

最初に暗証番号を登録します。暗証番号を登録していないと「レベル」、および「国コード」を選択することはできません。

暗証番号の画面が表示されます。

2

暗証番号を数字ボタンを押し、4桁で入力する

3

ENTERボタンを押す

初期設定画面表示に戻ります。

！ヒント

- 暗証番号はメモしておくことをおすすめします。
- 暗証番号を忘れてしまったときは、お買い上げ時の設定に戻して（☞57ページ）、再度設定してください。
- ディスクによっては、視聴制限されたシーンのみをとばして再生します。詳しくは、ディスクに添付されている操作方法をご覧ください。

暗証番号を変更するには

1

「暗証番号変更」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

暗証番号入力の画面が表示されます。

2

すでに登録している暗証番号を数字ボタンを押し、4桁で入力する

3

ENTERボタンを押す

暗証番号変更の画面が表示されます。

4

新しい暗証番号を数字ボタンを押し、4桁で入力する

5

ENTERボタンを押す

暗証番号が変更されます。

レベルを変更する

1

「レベル変更」を選び、ENTERボタンを押す

暗証番号入力の画面が表示されます。

2

すでに登録している暗証番号を数字ボタンを押し、4桁で入力する

3

ENTERボタンを押す

視聴制限レベルの設定画面が表示されます。お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

4

◀/▶ボタンでレベルを選び、ENTERボタンを押す

視聴制限のレベルが設定されます。

視聴制限できるDVDを再生するには

視聴制限されたディスクを再生すると暗証番号の入力を求める画面が表示されることがあります。暗証番号を入力しないと再生することができません。以下の手順で操作します。

1. **数字ボタンを押して、4桁の暗証番号を入力する**
2. **ENTERボタンを押す**

国コードを変更する

右項の国コード表を見ながら操作します。

1

「国コード」を選び、ENTER(エンター)ボタンを押す

暗証番号入力の画面が表示されます。

2

すでに登録している暗証番号を数字ボタンを押し、4桁で入力する

3

ENTERボタンを押す

国コード設定画面が表示されます。

4

「国コード表」、または「コード」を選ぶ

「コード」で国コードを選ぶとき
以下のいずれかの操作をします。

例　日本を選ぶ場合
- 数字ボタンの1、0、1、6を押す
- ▲/▼ボタンを押して数字を選択する（◀/▶ボタンを押してケタを移動する）

「国コード表」で国コードを選ぶとき

例　日本を選ぶ場合
▼ボタンで「jp」を選ぶ

5

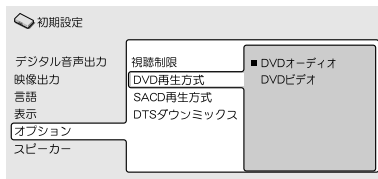
ENTERボタンを押す

国コードを変更したときは、ディスクを一度取り出してください。再度ディスクをセットすると変更が有効になります。

国コード表

	入力コード	国コード
アメリカ	2119	us
アルゼンチン	0118	ar
イギリス	0702	gb
イタリア	0920	it
インド	0914	in
インドネシア	0904	id
オーストラリア	0121	au
オーストリア	0120	at
オランダ	1412	nl
カナダ	0301	ca
韓国	1118	kr
シンガポール	1907	sg
スイス	0308	ch
スウェーデン	1905	se
スペイン	0519	es
タイ	2008	th
台湾	2023	tw
中国	0314	cn
チリ	0312	cl
デンマーク	0411	dk
ドイツ	0405	de
日本	1016	jp
ニュージーランド	1426	nz
ノルウェー	1415	no
パキスタン	1611	pk
フィリピン	1608	ph
フィンランド	0609	fi
ブラジル	0218	br
フランス	0618	fr
ベルギー	0205	be
ポルトガル	1620	pt
香港	0811	hk
マレーシア	1325	my
メキシコ	1324	mx
ロシア	1821	ru

DVD再生方式の設定

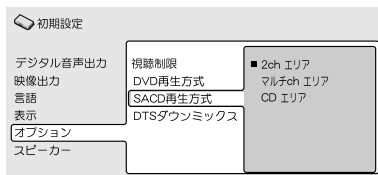
DVDビデオとDVDオーディオが1枚に収録されているディスクを再生するとき、どちらを再生するかを設定します。

DVDオーディオ：
DVDオーディオ（オーディオゾーン）を再生するときに選びます。（お買い上げ時の設定）

DVDビデオ：
DVDビデオ（ビデオゾーン）を再生するときに選びます。

！ヒント

「DVDビデオ」を選択していても、本体の▲ボタンを押したり、電源を切ると「DVDオーディオ」に戻ります。

SACD再生の設定

SACDは、2チャンネルと5.1チャンネルのエリアが別々になっています。ハイブリッドSACDはSACD層とCD層の2層構造になっています。ここでは、SACDの再生するエリアを切り換えます。

2chエリア：
2チャンネルエリアを再生するときに選びます。
（お買い上げ時の設定）

マルチchエリア：
マルチチャンネルエリアを再生するときに選びます。

CDエリア：
CD層を再生するときに選びます。

DTSダウンミックスの設定

DTSダウンミックスの設定をします。

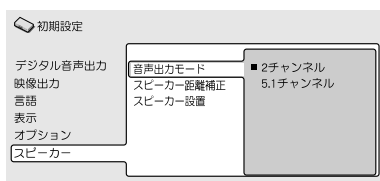
STEREO：
DTSのダウンミックス方法をステレオダウンミックスに設定するときに選びます。通常のステレオ音声でお楽しみいただけます。（お買い上げ時の設定）

Lt/Rt：
DTSのダウンミックス方法をサラウンドダウンミックスに設定するときに選びます。ドルビーサラウンドマトリックスと互換性のある音声です。サラウンド対応のAVアンプなどに接続することで、サラウンド音声をお楽しみいただけます。

設定をする

スピーカーの設定をする

音声出力モード

音声出力方法を選択します。

2チャンネル：
テレビなどのステレオ音声入力端子と本機のAUDIO OUTPUT FRONT/D.MIX端子を接続したときに選びます。（お買い上げ時の設定）

5.1チャンネル：
AVアンプの5.1チャンネルアナログ音声入力端子と本機のAUDIO OUTPUT（5.1チャンネル）端子を接続したときに選びます。

！ヒント

- 「2チャンネル」を選択しているときは、ドルビーデジタル、DTS、またはMPEGのマルチチャンネル音声は2チャンネル音声にダウンミックスして出力されます。
- DVDオーディオ では、「5.1チャンネル」を選択しているとデジタル音声が出力されません。
- DVDオーディオ にはダウンミックスを禁止しているディスクがあります。その場合は、「2チャンネル」を選択してもダウンミックスされません。また、ダウンミックスを禁止しているディスクでは、デジタル音声は出力されません。
- 「2チャンネル」を選択しているときは、DTSマルチチャンネルのダウンミックス方法が選択できます。

■音声出力について

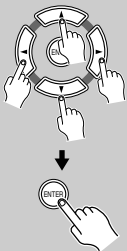
音声の種類		出力モード	音声出力（5.1CH）				デジタル出力	
			フロント左/右	センター	サラウンド左/右	サブウーファー	リニアPCM 変換する	リニアPCM 変換しない
DVD	ドルビーデジタル	5.1CH	フロント左/右	センター	サラウンド左/右	LFE*2	2CHダウンミックス	ドルビーデジタル
		2CH	2CHダウンミックス	×	×	×	2CHダウンミックス	ドルビーデジタル
	ドルビーデジタルカラオケ	5.1CH	左/右	×	×	×	左/右	ドルビーデジタル
		2CH	左/右	×	×	×	左/右	ドルビーデジタル
	リニアPCM（DVDビデオ）	5.1CH	左/右	×	×	×	左/右	左/右
		2CH	左/右	×	×	×	左/右	左/右
	DVDオーディオ	5.1CH	フロント左/右	センター	サラウンド左/右	LFE*2	×	×
		2CH	2CHダウンミックス*1	×	×	×	2CHダウンミックス*1	2CHダウンミックス*1
	MPEG	5.1CH	フロント左/右	センター	サラウンド左/右	LFE*2	左/右	MPEG
		2CH	左/右	×	×	×	左/右	MPEG
	DTS	5.1CH	フロント左/右	センター	サラウンド左/右	LFE*2	2CHダウンミックス	DTS
		2CH	2CHダウンミックス	×	×	×	2CHダウンミックス	DTS
	DVD-RW（VR）	5.1/2CH	左/右*3	×	×	×	左/右	ドルビーデジタル MPEG リニアPCM
SACD		5.1CH	フロント左/右	センター	サラウンド左/右	LFE*2	×	×
		2CH	2CHダウンミックス	×	×	×	×	×
CD		5.1/2CH	左/右	×	×	×	左/右	左/右
ビデオCD		5.1/2CH	左/右	×	×	×	左/右	左/右
DTS CD		5.1CH	フロント左/右	センター	サラウンド左/右	LFE*2	2CHダウンミックス	DTS
		2CH	2CHダウンミックス	×	×	×	2CHダウンミックス	DTS

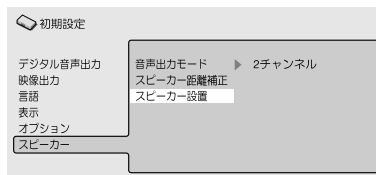
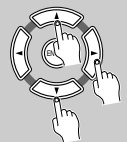
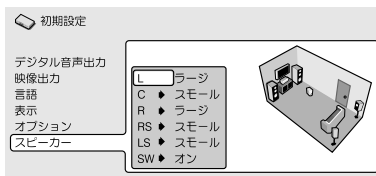
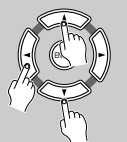
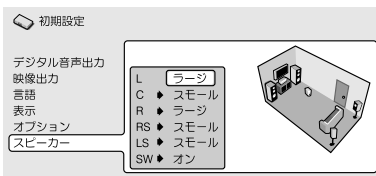
＊1 DVDオーディオでは、ダウンミックスを禁止しているディスクがあります。このときは、「音声出力モード」（52ページ）を「2チャンネル」に設定してもダウンミックスされません。
また、ダウンミックスを禁止しているディスクでは、デジタル音声は出力されません。
＊2 超低域成分
＊3 出力モードが5.1チャンネルのときは、モノラル素材はセンターのみとなります。
- 表の ［　］ 部分は音声が出力されません。
- ディスクに一部のチャンネルが記録されていないときは、そのチャンネルから音声は出力されません。

スピーカー設置 と スピーカー距離補正

DVDオーディオなどのアナログマルチチャンネル音声を再生する場合に設定してください。

各スピーカーの大きさを設定する

1

▲/▼/◀/▶ボタンで「スピーカー」→「スピーカー設置」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

2

▲/▼ボタンで設定したい「スピーカー」を選び、▶ボタンを押す

3

▲/▼ボタンでスピーカーの「大きさ」または「接続の有無」を選び、◀ボタンを押す

ラージ：
大型のスピーカーに接続しているときに選びます。（目安として口径16cm以上）（お買い上げ時の設定）

スモール：
小型のスピーカーに接続しているときに選びます。（目安として口径16cm未満）

オフ：
接続していないときに選びます。

オン：
サブウーファー（SW）を接続しているときに選びます。（SWでは「オン」「オフ」を設定します。）

手順***2***、***3***をくり返して、各スピーカーの設定をします。

4

RETURN（リターン）ボタンを押す

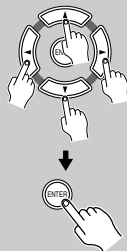
RETURN

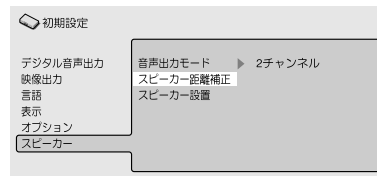
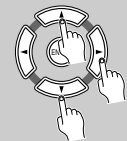
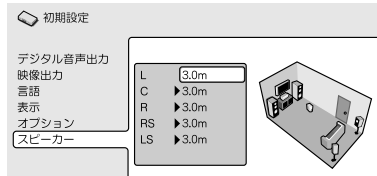
「スピーカー設置」の画面が消えます。

設定画面を終了するときは、SETUP（セットアップ）ボタンを押します。
続けて、各スピーカーの距離を設定するときは、「各スピーカーの距離を設定する」に進んでください。

！ヒント
- サブウーファー（SW）を「オン」に設定しているときは、LFE（超低音の効果音）がサブウーファーから出力されます。
- L（フロント左）/R（フロント右）スピーカーを「スモール」に設定すると、RS（サラウンド右）/LS（サラウンド左）とC（センター）スピーカーの大きさは自動的に「スモール」に設定されます。また、SW（サブウーファー）は「オン」に設定されます。

各スピーカーの距離を設定する

1

▲/▼/◀/▶ボタンで「スピーカー」→「スピーカー距離補正」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

2

▲/▼ボタンで設定したい「スピーカー」を選び、▶ボタンでカーソルを右に移動する

▷次ページに続く

3

▲/▼ボタンで距離を設定し、◀ボタンを押す

設定できる範囲は以下のとおりです。

L：0.3m～9m
R：0.3m～9m
C：L/Rの距離から－2.1m～0m
LS：L/Rの距離から－6.0m～0m
RS：L/Rの距離から－6.0m～0m

4

RETURN（リターン）ボタンを押す

「スピーカー距離補正」の画面が消えます。

設定画面を終了するときは、SETUP（セットアップ）ボタンを押します。

！ヒント

- 5.1チャンネル再生では、スピーカーの距離の設定はすべてのスピーカーは同一サイズ、リスニングポジションから等距離にあることが理想です。それが不可能な場合、各スピーカーにディレイタイム（遅延時間）を設定することで、仮想的に理想の視聴空間を実現します。
- サブウーファー（SW）の距離を調整することは、できません。
- DVDビデオのＭＰＥＧ音声、または SACD の再生中は、「C」「LS」「RS」の距離補正の上限が－0.9mになります。

困ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

電　源	参照ページ
電源が入らない ● 電源プラグがコンセントおよび本体から抜けていないか確認してください。	P23
勝手に電源が切れる ● ディスクの再生をしていないときに約30分間、本体またはリモコンの操作をしないと、電源が自動的にスタンバイ状態になります。（オートパワーオフ機能）再度電源を入れてください。	

ディスクの再生	
ディスクの再生ができない ● ディスクはディスクトレイに正しくセットされていますか？ ディスクの再生面を下にしてディスクトレイに置いているか確認してください。	P26
● ディスクは汚れていないか確認してください。	P10
● 本機で再生できるディスクかどうか確認してください。	P8
● リージョン番号が本機に合っていないDVDビデオは再生できません。本機で再生できるリージョン番号は「2」と「ALL」です。	P8
● パレンタルロックが働いている場合は、パレンタルロックの解除、またはレベル変更を行ってください。	P48～50
● 結露しているおそれがある場合は、本機の電源を入れて約1時間放置してからご使用ください。30分が経過するとオートスタンバイ機能が働き、本機はスタンバイ状態になります。そのまま30分お待ちください。	P11
ディスクの再生順序通りに再生できない ● リピート再生、プログラム再生、ランダム再生等の特別な再生モードを解除してください。	P31～34
DVD再生中に映像が乱れる、または暗い ● 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによっては、コピー禁止信号が入っています。そのようなディスクを再生したとき、テレビによっては映像の一部に横しまが入るなどの現象が出るものもありますが、故障ではありません。	
DVDの映像をVTRに録画したり、VTRを通して再生すると再生画面が乱れる ● 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによっては、コピー禁止信号が入っています。そのようなディスクをVTRを通して、またはVTRに録画して再生するとコピーガードにより正常に再生されません。	
本機をビデオ内蔵テレビに接続してDVDを再生すると、映像が乱れる ● ビデオ内蔵テレビの機種によっては、コピーガードの働きにより正常に再生されないことがあります。詳しくは、お使いのテレビメーカーにお問い合わせください。	
DVDオーディオを再生すると途中で停止してしまう ● 違法に複製されたディスクの可能性があります。	

次のような場合は、ディスクを再生できない場合があります。
- レコーダーまたはパソコンで記録したDVD-R/DVD-RWディスク、CD-R/CD-RWディスクを再生できないことがあります。（原因：ディスクの特性、傷、汚れ、プレーヤーのレンズの汚れ、または結露など）
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください。（詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- パケットライト方式で記録されたディスクは再生できません。
- ファイナライズしていないDVD-R/DVD-RW/CD-R/CD-RWディスクを再生することはできません。

複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽用CDの再生
再生時に雑音が入ったり、音飛びする/ディスクを認識せず「NO DISC」の表示が出る/1曲目を再生しない/頭出しに通常よりも時間がかかる/曲の途中から再生する/再生できない箇所がある/再生の途中で停止する/誤表示する ● 再生しているディスクは複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽用CDです。コピーコントロール機能のついた音楽用CDの中には、CD規格に合致していないものがあります。それらは、特殊ディスクのため、本機で再生できない場合があります。

各種設定
設定内容が消える ● 電源が入っているときに、停電や電源プラグが抜かれて電源が切れてしまったときは、設定内容が消えてしまいます。電源プラグは必ず本体のSTANDBY/ON、またはリモコンのSTANDBYを押して、表示部の「GOOD BYE」表示が消えてから抜いてください。特に他機器のACアウトレットに電源コードを接続しているときはご注意ください。接続している機器の電源と連動して本機の電源が切れます。電源コードは、なるべく壁などのコンセントに接続することをおすすめします。
設定が変更できない ● 再生中は変更できない項目がありますので、その場合は停止してから変更してください。

困ったときは

映　像

画面が縦または横に伸びている
- 「テレビ画面」の設定がテレビと合っていない。「初期設定」で設定してください。 P44

再生画像が時々乱れる
- ディスクが汚れていないか確認してください。 P10
- 早送り、早戻しをすると画像が多少乱れることがあります。これは本機の故障ではありません。
- 一部のプログレッシブ対応テレビは本機と完全な互換がとれていないため、画像に乱れが生じる場合があります。プログレッシブ再生時に不具合が生じた場合は、本機のプログレッシブを解除し、テレビ側のプログレッシブ機能をお使いください。 P45

再生画像の明るさが一定しない。または、再生画像にノイズが入る
- 本機をビデオデッキまたはビデオ内蔵テレビ経由でテレビに接続している場合は、コピー防止機能が働きますので、直接テレビに接続してください。 P19
- テレビやモニターによっては再生時の色の濃さ（カラーレベル）がわずかに薄くなったり、色合い（ティント）が変わったりする場合があります。この場合は、テレビやモニターを調節して、適切な状態にしてください。

映像がテレビ画面にあらわれない
- 接続したテレビ、またはアンプの入力設定が正しいか確認してください。また、接続コードがしっかり差し込まれているかご確認ください。
- 停止中や一時停止など同じ画面が長時間表示される場合は、スクリーンセーバー機能が働きます。
  この場合、►（プレイ）ボタンを押して解除してください。 P24
- テレビのD1端子へ接続している場合は、プログレッシブを解除してください。 P45
- 映像の出力方式がプログレッシブになっている場合は、Sビデオ端子とビデオ端子から映像が出力されません。
  インターレースに切り換えてください。 P45

音　声

再生しているディスクの音声が出てこない（アナログ接続、デジタル接続共通）
- 接続コードがしっかり差し込まれているか確認してください。 P19～22
- 接続した機器の入力端子を間違えていないか確認してください。 P19～22
- 接続した機器の入力設定を間違えていないか確認してください。
- 接続したテレビやAVアンプの音量が小さくなっていないか確認してください。また、AVアンプに接続したときは、入力切換、スピーカーの設定なども確認してください。
- 一時停止、スロー再生、早送り、早戻しでは音が出ませんので、►（プレイ）ボタンを押して通常再生に戻してください。

DTS音声が出力されない
- DTSの信号はアナログ接続では音が出力されません。DTS対応のAVアンプにデジタル接続してください。
- 音声出力の設定が接続機器と合っていない。「初期設定」で設定してください。
  アンプがDTSに対応していない場合、「DTS出力」を「DTS>PCM」に設定してください。 P43

再生しているディスクの音声が出てこない（デジタル接続）
- 初期設定で「デジタル出力」を「オン」に設定してください。 P43
- 「デジタル音声出力」の設定により、音が出ないことがあります。
- DVDオーディオにはデジタル音声を出力できないディスクがあります。
- SACDではデジタル音声を出力できません。アナログ音声出力端子（5.1chまたは2ch）の接続をしてください。P21
- 接続している機器が対応していない音声方式を再生している。
- 接続している機器が96kHzPCM出力に対応していない場合は、初期設定で「ダウンサンプルオン」に設定してください。 P43

音声がモノラル出力になっている
- ビデオCD再生時、AUDIOボタンを押して1/L（左）、2/R（右）に設定した場合はモノラル出力となります。ステレオに戻す場合は、AUDIOボタンを押して、ステレオに設定してください。（注）映像の画面出力として状態が表示されますので、テレビを接続して確認してください。 P37

DVDとCDで音量差を感じる
- ディスクの記録方式の違いにより音量に差があります。

スピーカーからマルチチャンネル音声が出力されない
- 「音声出力モード」の設定で「5.1チャンネル」を選択してください。 P52
- 「スピーカー設置」の設定を行ってください。 P53
- ディスクのメニュー、またはリモコンのAUDIOボタンで、ディスクの音声をマルチチャンネルに切り換えてください。

マルチチャンネル音声がデジタル出力できない
- DVDオーディオのマルチチャンネル音声はデジタル出力できません。（ドルビーデジタルまたはDTS音声は、デジタル出力できます。）マルチチャンネル音声をお楽しみいただくには、アナログ音声出力端子（5.1ch）の接続をしてください。

192/176.4kHz音声がデジタル出力できない
- DVDオーディオの192/176.4kHz音声はデジタル出力できません。96/88.2kHz、または48/44.1kHzに変換して出力されます。また、ディスクによってはデジタル出力できないことがあります。

96/88.2kHz音声でデジタル出力できない
-「リニアPCM出力」の設定で「ダウンサンプルオン」が選択されていないか確認してください。
- 著作権保護がされているディスクでは、96/88.2kHz音声のデジタル出力が禁止されています。

MP3/WMAの再生

MP3/WMAファイルを記録したディスクが再生できない
- 記録したディスクがISO9660に準拠しているか確認してください。 P9
- MP3/WMAファイルを記録したディスクがファイナライズされていることを確認してください。 P9
- DRMコピープロテクト*のかかったWMAファイルは再生できません。
  *DRM（Digital Rights Management）コピープロテクトは著作権保護のための技術で、違法な複製を防止するため録音時に使用したPCなどの機器以外での再生を制限する機能です。詳しくは、録音に使用した機器、アプリケーションの取扱説明書やヘルプなどをご覧ください。
- サンプリング周波数が32kHz、44.1kHzまたは48kHzで記録されていないWMAファイルは再生できません。
- 可変ビットレート（VBR）またはロスレスエンコーディングのWMAファイルは再生できません。
- サンプリング周波数が32kHz、44.1kHzまたは48kHzで記録されていないMP3ファイルは再生できません。

ディスクに記録されているトラック（MP3ファイル）を選択できない
-「.mp3」または「.MP3」以外の拡張子がついていると認識できませんので、拡張子を変更してください。 P9
- 本機では299フォルダ、648トラックまで認識・再生することができます。
  ただし、フォルダの構成によってはすべてのフォルダ、トラックを認識・再生できないことがあります。 P9

ディスクに記録されているトラック（WMAファイル）を選択できない
-「.wma」または「.WMA」以外の拡張子がついていると認識できませんので、拡張子を変更してください。 P9

JPEGの再生

JPEGファイルを記録したディスクが再生できない
- 記録したディスクがISO 9660フォーマットに準拠しているか確認してください。 P10
- 総ピクセル数が3072×2048ピクセル以下のベースラインJPEGファイルでない場合、再生できません。 P10
- プログレッシブJPEGファイルは再生できません。 P10

リ モ コ ン

本体のボタンは働くが、リモコンのボタンが働かない
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。 P16
- リモコンと本体の間が離れすぎていませんか？リモコンと本体の間に障害物がありませんか？ P16
- 本体のリモコン受光部に強い光（照明灯や直射日光）が当たっていませんか？ P16
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、正常に機能しないことがあります。 P16

そ の 他

希望する言語で、字幕、音声が出力されない
- 設定した言語がディスクに記録されていない。

システム機能が効かない
- RIケーブルとオーディオ用ピンコードの両方が正しく接続されているか確認してください。
  （RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません） P22

テレビなどが誤動作する
- ワイヤレスリモコン機能を持つテレビが、本機のリモコン信号により誤動作することがあります。本機と離して設置してご使用ください。

■お買い上げ時の設定に戻すには

本機が誤動作する場合は、STANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンを押して本機をスタンバイ状態にした後、■（ストップ）ボタンを押しながらSTANDBY/ONボタンを押してください。この操作を行うと設定した内容は全て消去され、お買い上げ時の状態に戻ります。

- 本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

- 製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

DV-SP502(55-E)(SN29343847) 57 04.8.5, 8:48 AM
ブラック

用語集

アスペクト比
テレビ画面の横と縦の比率をいいます。従来サイズのテレビでは4：3ですが、ハイビジョンテレビやワイドテレビは16：9の比率となっています。臨場感あふれる映像が楽しめるようになっています。

インターレース（飛び越し走査）
映像の1画面を半分ずつ2回に分けて描きます。最初に奇数番目の走査線を描き、目の残像を利用して、次に偶数番目の走査線を描いて1画面（フレーム）を表示します。従来のテレビの走査方式として採用されています。通常、走査線数の数字の後ろに「i」を付けて（525iなど）表記します。

拡張子
OSやアプリケーションソフトで管理されているファイルの種類を表わす文字符号。ピリオドと3文字のアルファベットで構成されています。

スクリーンセーバー
同じ静止画を長時間再生し続けると画面に焼きつき現象が出ることがあります。
これを避けるため、本機ではスクリーンセーバー機能を持っています。基本的には画面の輝度を落とせば同様の効果が得られますが、他のDVDプレーヤーのスクリーンセーバーでは一定時間操作しないと自動的に画面を暗くするもののほか、常に動画を表示して、画面の一カ所に強い光線（明るい色）が集中しないようにするものもあります。

映像出力（コンポジット）
輝度信号（Y）と色信号（C）を混合して1本のコードで伝送できるようにした信号です。ただし、入力機器側で混合された輝度信号（Y）と色信号（C）を分離しなければなりません。この輝度信号（Y）と色信号（C）を分離するときの精度で画質の良さが決まります。

コンポーネント映像出力
Y、C_B/P_B、C_R/P_Rの3つの信号からなり、コンポーネント入力付きのテレビと接続することにより、より美しい映像が得られる映像出力です。

視聴制限
暴力シーンなどを含むDVDビデオの中には、視聴制限のレベル（大小）が設けられたものがあります。ディスクのレベルよりも小さいレベルに本機の視聴制限レベルを設定すると、暗証番号を入力しないかぎり再生ができなくなります。

ダイナミックレンジ
ダイナミックレンジとは、ディスクに記録されている音声レベルの最大値と最小値の差異のことです。ダイナミックレンジは、デシベル（dB）単位で測定されます。
ダイナミックレンジを圧縮する（オーディオDRC）と、最小の信号レベルが上がり、最大の信号レベルが下がります。これにより、破裂音のような強い音声信号が低減される一方、人の声などの低いレベルの音声信号がはっきりと聞こえるようになります。

ドルビーデジタル
DVDの標準音声タイプのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流となっている5.1chサラウンドで記録されているソフトもあります。
ドルビーデジタル（5.1chサラウンド）で記録されているソフトとは、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことをいいます。本機をドルビーデジタル対応のAVアンプなどとデジタル接続してこのソフトを再生すると、臨場感あふれるマルチチャンネル再生をお楽しみいただけます。

光デジタル出力
音声は通常、電気信号に変えて電線でプレーヤーからアンプなどの他の機器に伝達しますが、これをデジタル信号に変えて、光ファイバーで伝達できるようにしたものが光デジタル出力です（アンプなど、受け取り側は光デジタル入力になります）。

ビデオCD
MDと同等の音質とVHS並みの画質で動画再生が楽しめるディスク。デジタル信号の圧縮技術（MPEG1方式）により最大74分のデジタル画像と音声が連続再生できます。
ビデオCDにはメニュー画面で見たい場面を選んだり、静止画を再生できる“プレイバックコントロール（PBC）”対応のディスクがあります。

ビットレート（Bit Rate）
DVDビデオに圧縮して記憶されている画像の1秒あたりの情報量を示す値。
単位はMbps（Mega bit per second）で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表します。
この値が大きいほど画像の情報量は多くなりますが、必ずしも画質とは直接関係しません。

プレイバックコントロール（PBC）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC付きビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、簡単な対話形式のディスクや検索機能のあるディスクの再生が楽しめます。
また、高/標準解像度の静止画も楽しむことができます。

プログレッシブ（順次走査）
映像の1画面を2回に分けずに1画面ずつ描きます。特に静止画の文字やグラフィックス、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた美しい画像を楽しめます。通常、走査線数の数字の後ろに「p」を付けて（525pなど）表記します。

ボーナスグループ
DVDオーディオでは、4桁の番号（キーナンバー）を入力することによってアクセス可能となる「ボーナスグループ」と呼ばれるグループが存在するディスクがあります。ボーナスグループを再生しようとすると入力画面が自動的に現れるので、ディスクのパッケージやディスクジャケットに示してあるキーナンバーを入力すると再生が開始されます。

マルチアングル
通常のテレビ番組などはテレビカメラからの映像を見ていますので、画像は撮影しているカメラの位置の視点でテレビ画面に表示されます。テレビスタジオなどでは数台のカメラで同時に撮影した映像の1つを番組ディレクターが選んで電波にのせて各家庭のテレビに送っていますので、視聴者側で視点（カメラ）を選ぶことはできません。DVDビデオには、同時に複数のカメラで撮影したすべての映像が記録されているものがあり、プレーヤー側で視点を自由に選ぶことができます。DVDビデオではアングルを最大9つまで記録することができます。

マルチ音声言語
DVDビデオの中には、1枚のディスクの中に複数の音声を持っているものがあります。DVDビデオでは音声を最大8言語（8ストリーム）まで記録することができ、その中からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

マルチ字幕言語（サブタイトル）
映画などでおなじみの字幕の言語です。DVDビデオでは字幕の言語を最大32カ国語まで記録することができ、その中からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

マルチセッション
CD-RやCD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから記録の終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リージョンNo.
DVDプレーヤーとDVDビデオディスクは発売地域ごとに地域番号（リージョンNo.）が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョンNo.は「2」です（本体後面部に表記されています）。

リニアPCM
DVDの音声デジタル記録の1つで、圧縮をしていない記録方式。CDと同じ記録方式ですが、サンプリング周波数が48kHz、96kHz（CDは44.1kHz）で記録されており、CDの音質を上回ります。

D端子
デジタル放送に対応したテレビなどの機器に装備されている映像信号（Y、CB/PB、CR/PR）と映像信号のフォーマットを識別する制御信号を1つのコネクタで接続する端子です。

DVDオーディオ/ビデオの静止画
DVDには音声や動画だけでなく静止画が入っている場合があります。DVDオーディオの静止画には2種類あります。スライドショーは、ディスクの設定にしたがって自動的に静止画が切り換わります。ブラウザブル静止画は、プレーヤーの操作で好きな静止画を選択して再生することができます。また、ブラウザブル静止画では、その静止画の番号「ページ」を指定して見たい静止画を探すこともできます。なお、DVDビデオの静止画はスライドショーのみです。

DVDビデオフォーマット記録
DVD VIDEO、またはDVD VIDEOマークの付いている市販のDVDビデオディスクと同じ方式（フォーマット）でDVD-R/DVD-RWディスクに一筆書きのように記録することをいいます。
DVDレコーダーによっては、これをビデオモード記録ともいいます。ビデオモードには、高画質で録画するモードと、長時間録画するモードがあります。

DTS
DTSとはDigital Theater System, Inc.社の5.1chデジタル・サラウンド録音再生方式のことで、DVDビデオのオプション音声タイプとして認められています。本機をDTS対応のAVアンプなどとデジタル接続すると、DTSデジタル・サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル（5.1chサラウンド）で記録されているソフトと同様に5.1chで音声を楽しむことができます。

Exif
Exchangeable Image File Formatの略でエグジフと読みます。富士写真フイルムが開発したデジタルスチルカメラ用のファイルフォーマットです（JEIDA規格）。撮影日などの、撮影や画像に関する情報とサムネイル画像が収録できるように拡張されているファイルフォーマットです。

JPEG
JPEGとは、ITU-TS（国際電気通信連合: 旧CCITT）とISO（国際標準化機構）で定められた、写真やイラストなどの画像ファイルを保存する形式（画像フォーマット）のひとつです。JPEG形式の画像ファイルには「.jpg」という拡張子がつきます。デジタルカメラで撮った写真などもほとんどJPEG形式で保存されています。

MP3
MP3とは、MPEG1オーディオレイヤー3というファイル形式で圧縮した音楽データです。「.mp3」という拡張子の付いたファイルをMP3ファイルと呼びます。

MPEG
Moving Picture Experts Groupの略でエムペグと読みます。これは動画音声圧縮方法の国際標準です。
DVDビデオの映像やビデオCDの映像/音声は、この方式で記録されています。DVDビデオの中には、この方式でデジタル音声を圧縮して記録しているものもあります。

SACD
CDの規格をベースに、より多くのデータが記録された高音質ピュアオーディオ規格です。SACDには1層ディスク、2層ディスクとハイブリッドディスクの3種類があります。ハイブリッドディスクは、SACDとCDの両方の構造を持ち合わせています。

VRモード（ビデオレコーディングフォーマット）記録
映像、および音声信号をDVD-RWレコーダーでDVD-RWディスクの不特定な位置に即時書き込み*することをいいます。（*即時書き込み＝パソコンでは、入力されたデータをすぐにハードディスク（リムーバブルメディア）に書き込まず、一度メモリーに記憶します。その後、CPU（OS）が順番を整理してハードディスクに書き込みます。これに対して、データが入力された順にハードディスクに書き込んでいくことを即時書き込みといいます。）DVDレコーダーによっては、これをVRモード記録ともいいます。VRモードには、標準的な画質で録画するモードと、画質および録画時間を自由に設定して録画するモードがあります。

WMA
「Windows Media® Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XP、またはWindows Media® Player 9 Seriesを使用してエンコードすることができます。Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
WMAファイルは、米国Microsoft Corporationより認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

3/2.1CH
3/2.1はディスクに記録されているチャンネル数を表しています。
例）5.1CHの場合
- フロントチャンネル［L(1CH)/R(1CH)］
- センターチャンネル［(1CH)］
- サラウンドチャンネル［L(1CH)/R(1CH)］
- LFE[*1]チャンネル［1CH×0.1[*2]＝0.1CH］

[*1] 重低音強調効果の意
[*2] 音声全体に対して低音が占める割合

画面には下記のように表示されます。

主な仕様

総合

電源・電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	10W
待機電力	0.1W
質量	3.5kg
最大外形寸法	435（幅）× 81（高さ）× 309（奥行き）mm
許容動作温度/湿度	5°C〜35°C/5%〜85%
再生可能ディスク	SACD、DVDオーディオ、DVDビデオ、DVD-R*/RW*（VR、VIDEO）、CD、CD-R/RW*、VCD、WMA、MP3、JPEG ＊ファイナライズの状態によっては、再生できない場合があります。

オーディオ部

周波数特性（デジタル音声）	
DVDオーディオ、SACD	4Hz〜88kHz（192kHz）
DVDリニア	4Hz〜44kHz（96kHz） 4Hz〜22kHz（48kHz）
オーディオCD	4Hz〜20kHz（44.1kHz）
SN比	106dB
ダイナミックレンジ	96dB
全高調波歪率	0.003%（1kHz）
ワウ・フラッター	測定限界［±0.001%（W. PEAK）、EIAJ］以下
出力電圧/インピーダンス	−22.5dBm（光デジタル出力） 0.5 V(p-p)、75Ω（デジタル同軸出力） 2.0 V(rms)、440Ω（アナログ出力）

ビデオ部

信号方式	日米標準NTSCカラーテレビジョン方式
映像出力/インピーダンス	1.0V(p-p)、75Ω、同期負、ピンジャック×1
S映像出力/インピーダンス	(Y)1.0V(p-p)、75Ω、同期負、ミニDIN4ピン×1 (C)0.286V(p-p)、75Ω
D2/D1映像出力/インピーダンス	(Y)1.0V(p-p)、75Ω (PB/CB)、(PR/CR)0.7V(p-p)、75Ω、D端子×1
コンポーネント映像周波数特性	5Hz〜50MHz

※ 仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　DV-SP502
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。